2016 平成28年

教室年報

Iwate Medical University

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2016

巖刀会（外科学講座同門会）

幣懸（ぬさかけ）の滝（矢巾町）

http://surgery-iwate-med.jp

外科学講座ホームページ紹介

外科学講座の歴史

外科学講座の歴史は古く岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立１年後の昭和４年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。

その後、昭和５年に三宅徳三郎、昭和１３年には永松之幹が教授となり、昭和１９年には瀬田孝一が教授に昇任した。

昭和２４年に医科大学に昇格し、昭和３１年第２外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任３５年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和５４年の瀬田の退職後、同年東北大学第２外科助教授の森昌造が教授に赴任した。各疾患別グループ制を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和６１年森が東北大学第２外科教授へ転任し、昭和６２年６月に斎藤和好が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術等の外科学の更なる進歩に貢献した。

平成１７年に斎藤の退職後、同年９月慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授に就任、患者様を中心として最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として、内視鏡外科の指導的施設としての発展と北東北での肝移植を実現した。

平成２７年８月に同科准教授 佐々木章が教授に就任し、良質な医療を提供するために、研究、教育そして診療に取り組んでいます。

外科学講座の広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解を頂くために、ホームページの充実を図っております。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもお分かり頂くことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報（2016年）
岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

将来に向けた教室運営……外科学講座教授　佐々木　章

教室の今年1年

……外科学講座准教授　肥田　圭介

医局長としてのこの一年、そしてこれから

……外科学講座特任准教授　医局長　大塚　幸喜

008 **外科学講座スタッフ紹介・日常風景**

011 **グループ紹介**

内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・下部消化管グループ・乳腺グループ・リサーチグループ《分子治療研究室》・小児外科グループ・高度救命救急センター・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

024 **平成27年診療状況**

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

026 **新教室員紹介**

天野　怜／畑中　智貴／二階　春香

027 **寄稿**

― 喜寿を迎えて ―

……岩手医科大学名誉教授　岩手リハビリテーション学院　齊藤　和好

巌刀会学術賞を受賞して ……遠藤　史隆

第42回日本臓器保存生物医学会学術集会を盛岡で開催しました……新田　浩幸

［国内留学レポート］… 浜松医科大学外科学第二講座　大腸グループ　上嶋　徳

［海外活動レポート］ウガンダ北部医療支援事業に参加して

……盛岡赤十字病院　第一外科部長　杉村　好彦

036 **平成27年アルバム紹介**

044 **関連病院だより**

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・内丸病院・盛岡市立病院・盛岡友愛病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・岩手県立大船渡病院・北上済生会病院・岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・八戸赤十字病院・かづの厚生病院

056 **外科紹介医療機関**

060 **研究業績**

069 **編集後記**

070 **協賛広告**

岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木　章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

将来に向けた教室運営

2015年８月に伝統ある岩手医科大学外科学講座の第５代教授を拝命し、８か月が経過しました。岩手医科大学と母校の金沢医科大学関係への挨拶状と挨拶めぐりで時間がまたたく間に過ぎていきましたが、今後の外科学講座のさらなる発展のために、まずは教室内の診療体制の整備が重要と考えました。教室で「開創手術の達人」からご指導を受けた各診療グループ長は、「内視鏡外科手術のエキスパート」として、国内で認知される外科医として育っております。また、教室員の卓越した臨床能力と実直な性格は大学内でも大きく評価されており、教室人事も順調に進めることができました。色々なタイミングも良く、2015年12月に胃グループの肥田圭介先生（准教授）、食道グループの秋山有史先生（講師）、2016年４月に大腸グループの大塚幸喜先生（特任准教授）、肝胆膵グループの新田浩幸先生（特任准教授）、肝胆膵グループの高原武志先生（講師）が昇任し、新体制の基盤が整ったと思います。

次のステップとして、この２～３年で乳腺グループの診療体制を充実させ、また、各診療グループの次世代指導者を教育することを第１目標に挙げたいと思います。また、県立病院を含めた関連施設についても、自治医科大学卒業の先生方のご協力をいただきながら、岩手医科大学卒業の病院長候補を計画的に派遣していきたいと思います。このためには、教室員の増加は重要な課題と考えておりますので、

kira SASAKI

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

巖刀会の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。嬉しいことに、今年度には研修医４名(岩手医大卒３名、自治医大卒１名)、大学院生１名(弘前大卒)が入局、他病院から１名(鳥取大卒)が１年の期間で大腸の専門研修に来ています。また、2016年10月には、後期研修医１名(秋田大卒)が入局する予定です。

今後の課題としては、米国の脳神経外科医であるCushingが残した言葉であるAcademic Surgeonの育成を目指し、教室員には大学人の使命を自覚してもらいたいと思います。手術は、私が入局した28年前に比べて約2.5倍に増加し、合併症も少ない精度が高い手技が実施できています。この反面、研究活動や英文論文の執筆に関しては少し業績が落ちていると感じています。診療に追われる毎日ではなくて、視座を変えて研究に対する前向きな姿勢が必要です。改善の取り組みとしては、文部科学省科学研究費などの競争的研究資金の獲得と英文論文の発表を目的として先行研究を教室員全員に義務付けし、２週に１回の割合でリサーチプロポーザルを行うことを始めました。そして、今後は若手外科医の時から学会は国内よりも海外発表の機会を多くし、論文は和文よりも英文発表に重点を置くように指導していきたいと思います。

創立120周年記念事業では、看護学部の平成29年度開設や矢巾新附属病院の平成31年度開設が予定され、医・歯・薬・看護の４学部からなる医療系総合大学となります。この一方で、平成28年度の診療報酬のマイナス改定、平成29年に予定されている消費税再増税、オリンピック関連事業に伴う建設費の高騰などの問題が本学の経営状況に大きな影響を及ぼすことが予測され、積極的な増収策が進められています。外科学講座の2015年の手術件数は1,199件、外来化学療法患者数は3,922名であり、附属病院(医科)の医療収入増を考える上でも重要な診療科であります。2015年１月からは、DPC対策、医療経費の削減を積極的に進めていますので、必ず増収として結果が出ると思います。今後も附属病院の移転整備に貢献できるように教室員とともに誠心誠意努力していきたいと思います。

今後とも、巖刀会の諸先輩方のご支援を賜りながら教室員一同が結束し、教室のさらなる発展を目指していく所存です。一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

教室の今年１年

Ke

岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

肥田　圭介

Keisuke Koeda, M.D., Ph.D.
Assistant Professor

今年１月１日付で外科学講座准教授を拝命いたしましたことをご報告するとともに、これまでの同門会の諸先生方並びに関係各位のご指導に深く感謝を申し上げます。今回は自分の新たな立場から教室の１年を振りかえるとともに今後の抱負に関し述べたいと思います。

昨年の前半は「医局は大丈夫ですか？」と色々な所で尋ねられた。其の度に「大丈夫です。皆で相談し協力して頑張っています。」と答えていた。実際その通りであり臨床、教育、研究のすべてにおいて周りが心配するほどの変化もなく粛々と行うことができていた。その背景には教授代行の小林医学部長と斎藤名誉教授を始めとする同門の先輩方のバックアップがあったのは言うまでもない。このような状況から感じたのは、我々はいつも個々で頑張っているものの、やはり岩手医科大学外科学講座という組織の一員として仕事をさせてもらっているということである。患者さんも学生ももちろんそれぞれの医師の能力や評判に惹かれ集まる部分もあると思うが、その多くは岩手医大外科のブランドを信頼して来ているということを理解しなければならない。故に自分の日常の仕事が組織の中でどのように役立っているのか、さらに何をすればよりよく貢献できるのかを考え、そのような視点をもった指導をしていかなければならない

isuke Koeda

M.D., Ph.D. Assistant Professor

だろう。

後半では「教室は落ち着きましたか？」と聞かれることが多くなった。それには「はい大丈夫です。皆変わりなくやっています。」と答えていた。確かに新教授就任とともに急に教室が変わる事はなく、数年かけて「色」が変化してくるのが自然である。そこには教授の方針のみならず、各時代の背景（学生の気質や専門医制度の変革など）が大きく影響し変化をもたらすのであろう。前と変わらないことが決して良いことではなく、今回の一連のことを契機に個々が何かを感じ、それぞれに変化していかなければならない。５年後、10年後にどんな「色」に変化しているか楽しみに頑張っていこう。

今年で入局し26年目を迎えた。新入局当時、自分が四半世紀後に医局で准教授として仕事をしている事を想像できただろうか。とにかく一人前の外科医として一級の術後管理と手術ができることを目標に（奨学金の返済も含めて）10年以上を費やしてきた。その後、大学でもう一度仕事をしたいという気が強くなり、帰局し今に至っている。今の立場で仕事していくうちに同じ領域の先生方と交流する機会が増え、自分のキャリアと比較して「今までなぜもっと頑張らなかったのだろう。」という思いに駆られることがしばしばある。その思いを医局員に伝えていくにはもう少し時間がかかるかもしれない。もうしばらくは医局で頑張っていかなくては。自分が少しでも後輩の見本となれることを目指して。

2012年

2001年

教室の今年１年

岩手医科大学医学部外科学講座
特任准教授

医局長　大塚　幸喜

Koki Otsuka, M.D., Ph.D.
Research Associate Professor

医局長としてのこの一年、そしてこれから

岩手医科大学外科の医局長になって丸２年が経過しました。私自身は第一外科に入局して、５名の医局長（石田茂登男先生、旭博史先生、池田健一郎先生、佐々木章先生、肥田圭介先生）のお世話になりました。先生方それぞれ、そつ無くその職を全うし医局長にふさわしい人格でとても頼もしい存在でした。私自身といえば、まだ２年（一期）経過したばかりですが、５年ぐらい経験したような充実感（疲労感？）を感じているのが正直な実感です。たしかにこの２年いろいろありました…。しかしこの充実感（疲労感？）はそればかりではないと思っております。というのも、この２年間で一番辛く、大変だったのは今年の１月から３月の人事異動の決定時期でした。昨年末から個人交渉を重ね十分に時間をかけてきたつもりでしたが、結果は各施設の先生方に満足していただけるような人事配置をすることができず自責の念に駆られました。私自身の医局長としての資質不足であることには間違いありませんが、それ以上に今回身にしみて分かったことがあります。「人材不足」です。ここ数年感じてはいたことでもあり医局内でも学生勧誘にがんばっていたつもりでしたが、この数ヶ月間で痛感しました。人材の無い環境でいくら悩んでも解決の糸口は見つからず時間ばかり経過し、私自身を含め教室員、同門の先生方の精神衛生面に大きな負担をかけてしまう結果になってしまいました。大学医局に求められるものは、関連施設への人事配置のための人員確保は言うまでもありませんが、その目的の根底は「臨床」「教育」「研究」のアクティビティーを高めるためであると考えます。しかし、どの分野も人材無くては遂行不可能です。当然のことのように思えるかもしれませんが、この事実を現医局員一人一人がどれだけ本気に感じ、真剣に新入医局員を増やそうと思っているのか？昨年一年間、そして今後残された期間の医局長としての私の使命は、医局員一人一人に人材不足である現状の危機意識を持ってもら

Koki Otsuka

M.D., Ph.D. Research Associate Professor

い、一人でも多くの同士を真剣に募ることだと心に決めました。

その取り組みの一環として、昨年９月には、勧誘を目的とした当教室初めてとなる「岩手県ベーシックトレーニングコース」を開催しました。外科に興味を持っている６学年の学生９名、１・２年目の研修医６名、教室員（関連施設指導医２名含む）15名、計30名で、福島県須賀川市にあるアニマルラボに大型バスを貸し切り１泊２日の研修を行いました。動物実習では、腹腔鏡下胆嚢摘出やＳ状結腸切除を術者としてやっていただきました。学生、研修医みんなが目を輝かせて必至に実習してくれたことが一番の収穫でしたが、それ以上に15名の教室員みんなが真剣に指導する光景を目の当たりにして、とても心強く感じたことが印象に残っています。その後の懇親会では、佐々木章教授から最優秀胆嚢摘出賞の表彰があり大変盛り上がりました。学生、研修医、教室員が一丸となったすばらしい研修を終えることができました。学生一人一人のアンケートからも、とても充実した研修だったという内容の回答が多く、是非今後も継続していきたいと考えております。

また、勧誘の一環として取り組んできたことの一つに、「出張手術先での同門の先生方との交流」です。これは数年前から手応えを感じていたイベントです。私自身、これまでも出張手術時に機会があれば学生を連れて行ってはいましたが、昨年も３回ほど６年生と一緒にお世話になりました。手術後は病院見学もさせていただき、そして夜は交流会と称した飲み会も企画していただきました。普段大学内でしか医師に接触する機会が無い学生にとっては、関連施設での外科医の役割（外科医は病院の守護神であること）やレベルの高い手術（腹腔鏡手術など）が普通に行われていることを初めて知る機会になり、外科医の魅力を知ってもらうためには最高のイベントであると確信しております。さらに、研修病院という立場からも病院を売り込むいいチャンスにもなると思います。

このような取り組みをしてかどうか、今年度４月時点での新入局員は６名になりました。そして今年大学を卒業した研修医の数名は、将来的（研修後には）に外科入局を強く希望しており、そのうち３名は昨年のアニマルラボ実習と出張手術を経験した学生達です。今後、実臨床の場で即戦力になるまでにはまだまだ時間はかかりますが、同門の先生方の協力や教室員が汗して撒いた種は確実に芽を出し始めています。我々が、第一外科、外科の先輩から代々教わってきた外科の魅力を考えると、入局者が増えることは当然の事だと思われる先生方も多いと思いますが、ここ数年感じていることは、今の超現実主義の学生達は「種を撒いただけ」では簡単に芽を出してくれません。良い肥料を与え、充分に手をかけなくては芽を出すまでには至りません。「良い肥料」とは色々な意味を含みますが、決して飲み食いにお金をつぎ込むことではありません。現教室員それぞれが大学内や国内外で光り続け、学生や若い外科医に将来の希望を与え続けることだと思っています。そして、学位から専門医まで手をかけて指導している今の教室の現状を見てもらうことが大事だと思っております。

同門の先生方にはどうかその点をご理解いただき、もう少しお時間をいただくことになりますが、必ずや今よりは満足していただけるような人事配置をさせていただきたいと思いますので、今後ともご協力お願いいたします。

医局長も残りどれくらいあるかわかりませんが、外科の魅力をさらに多くの学生、そして全国の若い外科医に伝え、一人でも多くの同士を増やしたいと思います。

外科学講座スタッフ紹介《平成28年4月1日現在》

助教 長谷川 康 〔平成14年卒〕

助教(任) 眞壁 健二 〔平成21年卒〕

助教(任) 遠藤 史隆 〔平成18年卒〕

助教 石田 和茂 〔平成17年卒〕

助教 塩井 義裕 〔平成13年卒〕

助教(任) 松井 雄介 〔平成22年卒〕

助教 小松 英明 〔平成16年卒〕

助教(任) 八重樫 瑞典 〔平成21年卒〕

助教 木村 聡元 〔平成14年卒〕

大学院生 瀬川 武紀 〔平成25年卒〕

助教(任) 上嶋 徳 〔平成20年卒〕

大学院生 天野 総 〔平成25年卒〕

准教授 肥田 圭介 〔平成元年卒〕

緩和医療学科教授 木村 祐輔 〔平成6年卒〕

特任准教授 新田 浩幸 〔平成5年卒〕

講師 岩谷 岳 〔平成7年卒〕

講師 秋山 有史 〔平成11年卒〕

大学院生 伊藤 千絵 〔平成18年卒〕

秘書 一戸 美香

秘書 磯部 あずさ

非常勤講師 杉立 彰夫

助教（任）
板橋 英教
［平成15年卒］

助教（任）
有末 篤弘
［平成18年卒］

助教
千葉 丈広
［平成15年卒］

助教（任）
梅邑 晃
［平成17年卒］

助教（任）
久米 浩平

専門研修医
三宅 孝典
［平成14年卒］

大学院生
畑中 智貴
［平成26年卒］

助教（任）
西成 悠
［平成19年卒］

助教
馬場 誠朗
［平成16年卒］

教授
佐々木 章
［昭和63年卒］

准教授
水野 大
［昭和62年卒］

特任准教授
大塚 幸喜
［平成5年卒］

講師
西塚 哲
［平成6年卒］

助教
小林 めぐみ
［平成19年卒］

助教（任）
川岸 涼子
［平成21年卒］

大学院生
二階 春香
［平成23年卒］

秘書
舘藤 美智子

秘書
鈴木 千里

病棟風景

グループ紹介

内視鏡外科グループ
肝胆膵グループ
上部消化管グループ《食道》
上部消化管グループ《胃》
下部消化管グループ
乳腺グループ
リサーチグループ《分子治療研究室》
小児外科グループ
高度救命救急センター
岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章、馬場誠朗、梅邑 晃

専門外来
水曜
8時30分-12時

臨床では、高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（LSG）が増加しました。研究では、２型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、睡眠時無呼吸症候群などに対するLSGの効果と改善機序の解明が主体となりました。当グループにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は100%で、特にreduced port surgeryの適応が増加しています。

平成27年のニュース

- ８月 ▶ 外科学講座教授就任
- ９月 ▶ 斎藤和好名誉教授の喜寿を祝う会を開催（駒龍）
- 11月 ▶ 外科学講座教授就任祝賀会

平成27年 診療･研究状況報告

●**入院数**：129例

●**手術数**：58例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	16例
胆嚢結石症	腹腔鏡下胆嚢摘出術	12例
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃部分切除術	8例
	腹腔鏡・内視鏡合同手術	3例
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	9例
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺亜全摘術	5例
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	2例
食道裂孔ヘルニア	2孔式腹腔鏡下Nissen手術	1例
特発性血小板減少性紫斑病	腹腔鏡下脾臓摘出術	1例
虫垂炎	単孔式腹腔鏡下虫垂切除術	1例

《年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
高度肥満症	12	15	16
副腎疾患	10	8	9
甲状腺疾患	4	5	7

《教室内》

・NASH合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化（平成27年度科研費 基盤研究C）：症例集積中

・肥満・糖尿病に基づく動脈硬化形成における小胞体ストレスの役割の解明（平成27年度科研費 基盤研究C）：症例集積中

・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：症例集積中

・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における異所性脂肪量の変化：症例解析中

・高度肥満を伴う閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：症例解析中

《全国規模》

・がん専門医医等育成事業：継続
www.cael.jpをごらん下さい。

●**今後の研究課題**

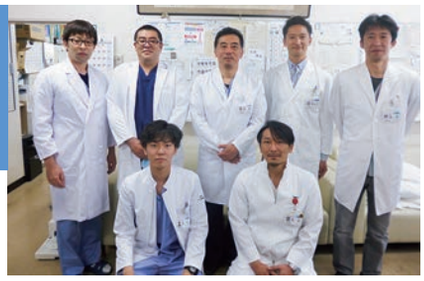
・食欲中枢異常による難治性高度肥満症の実態調査（平成28年度科研費 難治性疾患等政策研究事業）

・プロテアソーム機能活性化と小胞体ストレス応答制御による機能的膵島細胞シートの作成（平成28年度科研費 基盤研究C）

肝胆膵グループ

STAFF：新田浩幸、高原武志、長谷川 康、板橋英教
片桐弘勝、武田大樹、眞壁健二

専門外来
木曜
8時30分-12時30分
金曜
8時30分-12時30分
14時-16時30分



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて60例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年９月に脳死肝移植施設として認定され、現在まで６例行いました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。

平成27年 診療･研究状況報告

●**入院数**：288例

●**手術数**：192例

●**平成27年の手術症例**

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	34例
転移性肝癌	33例
肝内胆管癌	8例
胆管癌	16例 （肝門部6例、肝外10例）
胆嚢癌	1例
乳頭部癌	5例
膵癌（IPMC含む）	38例

▶良性

生体肝移植ドナー、肝嚢胞、IPMNなど	35例

▶その他

脾腫瘍など	22例

《術式別》

脳死肝移植	2例
生体肝移植	7例
肝切除	83例
PpPD	41例
膵体尾部切除	16例
膵全摘	1例
胆管切除	4例
胆石、胆嚢良性疾患手術	7例
バイパス（胆管、消化管）	5例
脾摘	2例
ラジオ波焼灼療法	4例
肝嚢胞天蓋切除	1例
非切除	4例
その他	15例

《年次推移》

	2011	2012	2013	2014	2015
肝細胞癌	27	34	36	63	34
肝内胆管癌	2	5	6	5	8
転移性肝癌	43	47	43	22	33
胆管癌	30	36	19	20	16
胆嚢癌	7	4	9	4	1
乳頭部癌	1	6	3	2	5
膵癌	7	33	31	36	38
脳死肝移植			1	3	2
生体肝移植	7	7	6	10	7

●**平成27年研究報告**

《教室内》

・「腹腔鏡下肝切除の肝門部流入血遮断に対するステロイド投与に関する臨床試験」症例集積中。

・「肝外細胞の肝再生に果たす役割」症例集積中。

・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」症例集積中。

など

《全国規模》

・「ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術の多施設共同試験」

・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」

・「膵頭十二指腸切除術後膵液瘻grade Cの危険因子の同定－前向き観察多施設共同研究－」

・「非大腸癌・非内分泌腫瘍由来肝転移の切除成績の全国統計」

上部消化管グループ《食道》

STAFF：岩谷 岳、秋山有史、塩井義裕、遠藤史隆

専門外来

火曜
8時30分-17時

食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。外来診療は外来化学療法室、放射線科と連携し、外来放射線／化学療法を導入しています。また術予定患者様には早期から周術期管理チームが介入しています。入院においては、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌まで、当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携し治療にあたっており、化学・放射線療法、手術を組み合わせた治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先　岩谷　岳　E-mail: tiwaya@iwate-med.ac.jp

平成27年のニュース

- 3月 ▶ 鴻巣正史助教が宮古病院で赴任されました。
- 4月 ▶ 遠藤史隆助教が食道グループへ配属となりました。
- 10月 ▶ 秋山有史助教が講師に昇進されました。

平成27年 診療･研究状況報告

●**新規食道癌入院**:73名

●**食道癌手術**:26名(胸腔鏡下食道切除術:19例)

疾患	術式	症例数
食道癌	胸腔鏡下食道切除術	19例
	右開胸食道切除術	2例
	左開胸開腹食道切除	2例
	経裂孔食道切除／食道バイパス他	3例

《年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
食道癌	27	35	26
胸腔鏡下	15	26	19

当グループにおける全手術に対する胸腔鏡手術の割合は73%でした。

●**平成27年研究報告**

《教室内》

・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」文部科学省科学研究費　基盤研究C(研究代表者　岩谷岳)論文作成中

・「癌細胞･癌関連線維芽細胞におけるヒストンmRNA/microRNA代謝経路を標的とした癌治療法開発に向けた基礎研究」文部科学省科学研究費　基盤研究C(研究代表者　岩谷岳)

・「新規がん抑制遺伝子TMPRSS11の解析」　文部科学省科学研究費　基盤研究C(研究代表者　秋山有史)

・「食道癌肉腫の分子生物学的解析による食道癌･間葉系機構の解明」文部科学省科学研究費　基盤研究C(研究代表者　鴻巣正史)

・「腺管分離法を用いた分子病理学的解析による胆道癌の発癌メカニズムの解明」文部科学省科学研究費　若手研究B(研究代表者　塩井義裕)

・「食道癌治療経過における血中遊離DNA中の遺伝子変異モニタリング」文部科学省科学研究費　若手研究B(研究代表者　遠藤史隆)

・「次世代シークエンサーを用いた食道扁平上皮癌における網羅的遺伝子変異解析」論文作成中(九州大学別府病院外科と共同研究)Gastroenterology, 2016

・「積極的アミノ酸投与による食道癌根治術後栄養管理の検討」論文投稿中

・「食道癌切除後頸部手縫い吻合467例の成績」論文投稿中

・「食道癌周術期管理チーム介入の効果」論文執筆中

・進行食道癌に対するDocetaxel/Cisplatin/5-Fu療法の検討」論文執筆中

・「切除不能･再発食道癌に対するbiweekly-DCF療法の安全性評価」データ集積中

・「食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討」データ集積中

・「進行食道癌における食道ステント挿入術の検討」予後追跡中

・「食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング」症例集積中

・「消化器癌の予後に関わるlong intergenic noncording RNA(LincRNA)の解析」解析中

《全国規模》

・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌(T4を除く)に対する術前 CF 療法／術前 DCF 療法／術前 CF-RT 療法の第III相比較試験」症例登録中

・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対する CF(シスプラチン+5-FU)療法と bDCF (biweekly ドセタキセル+CF)療法のランダム化第 III 相比較試験」症例登録中

・JCOG1213「消化管･肝胆膵原発の切除不能･再発神経内分泌癌(NEC)を対象とした エトポシド／シスプラチン(EP)療法とイリノテカン／シスプラチン(IP)療法のランダム化比較試験」症例登録中

・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術の ランダム化比較第 III 相試験」症例登録中

・「臨床病期IB-III (T4を除く) 食道癌に対するS-1術後補助療法の第II相臨床試験」症例登録中

●**今後の課題**

・食道癌手術症例数の増加。

・手術、化学療法、放射線療法による集学的治療成績向上。

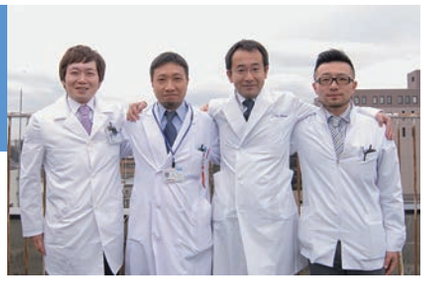
・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断･治療法の開発。

上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介、千葉丈広、西成 悠、瀬川武紀

専門外来

木曜
8時30分－16時



胃グループは肥田、千葉、西成の３名のスタッフに加え、大学院生の瀬川の計４名で診療を行っております。手術では教室の命題であります「腹腔鏡手術の発展」を目的に、臨床試験への積極的参加、適応拡大、技術認定医の育成を行ってきました。また化学療法に関しても各種臨床試験、治験に積極的に症例登録を行い胃癌に関するエビデンスの構築に関与できるよう日々研鑽を積んでいます。

当グループにおける胃切除手術に対する腹腔鏡下手術の割合は74％でした

平成27年のニュース

● １月 ▶ 日中韓腹腔鏡下胃切除術joint seminar（別府）に参加、発表（肥田）

平成27年 診療･研究状況報告

●**入院数**：236例
●**手術数**：139例

《内訳》

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	25例
	腹腔鏡下胃切除術	72例
GIST	切除術	2例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	40例

《年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
胃癌	101	97	97
GIST	4	3	2
計（悪性腫瘍切除数）	105	94	99

●**平成27年研究報告**

《教室内》

・「胃切除後骨代謝障害に関する観察研究」：症例集積、解析中。
・「高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討」：株ツムラとの共同臨床試験。症例登録中。

《全国規模》

・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
・JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網嚢切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録終了、解析中。
・JCOG1013「切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法とドセタキセル/シスプラチン/S-1併用療法（DCS）療法のランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
・JCOG1104「病理学的StageII胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較試験」症例登録中。
・JCOG1108 「高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/l-LV療法vs.FLTAX療法のランダム化比較試験」症例登録中。
・JCOG1401 「臨床病期Ⅰ期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術および腹腔鏡下噴門側胃切除術の安全性に関する非ランダム化検証的試験」症例登録中。
・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」Ⅱ相終了、Ⅲ相症例登録中。
・「フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤を含む初回化学治療に不応となった切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたABI-007の3週毎投与法とABI-007の毎週投与法と既存のパクリタキセル製剤の毎週投与法とのランダム化比較第Ⅲ相試験」登録終了解析中。
・「切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたTAS-118/Oxaliplatin療法とS-1/Cisplatin療法の多施設共同ランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
・「標準治療無効な転移性胃癌を対象としたベストサポーティブケア下のTAS-102とプラセボを評価する二重盲検無作為化第Ⅲ相比較試験」症例登録中。

●**今後の研究課題**

・併存疾患を有する胃がん症例に対する化学療法の確率
・腹腔鏡下胃癌手術の推進、技術認定医育成
・癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を指標とした化学療法
・胃切除再建法別の糖代謝に対する影響に関する検討

下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・木村聡元・箱崎将規・八重樫瑞典
上嶋 徳（浜松医科大学第二外科から国内留学）・三宅孝典（鳥取県立厚生病院から国内留学）
ストーマ外来（WOCN）：千葉励子・高橋咲子

専門外来
月曜 8時30分－15時
＊外来化学療法のみ金曜AM

ストーマ外来
月曜日

1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2015年12月までに1668例となり、昨年は全大腸癌手術の約９割が腹腔鏡手術でした。現在の当教室の腹腔鏡手術の適応は、周囲臓器浸潤のない症例数としております。ここ数年の特徴としては、30歳代の進行直腸癌が増えてきているため、肛門温存を含む機能温存手術、さらに術前化学療法後に側方リンパ節郭清を行い根治性に関しても腹腔鏡の拡大視効果を最大限に生かした手術を行っております。

さらに、腹腔鏡手術の低侵襲性を生かし、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても積極的に行っており、本手術を開始した1997年からこれまでに、手術死亡や大きな合併症は経験しておりません。また、当グループ内には日本内視鏡外科学会技術認定医３名が在籍していることもあり、国内あるいは世界標準の手術を提供できると自負しております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんのQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子WOCナース２名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

教育面に関しては、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2015年（2016年発表）までに８名（合格率100％）の内視鏡外科技術認定医合格者（大腸分野）を輩出してきました。また全国各地からの国内留学者（７名）や手術見学者（140施設）に対しても指導を行っております。

当グループにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は86％でした。

平成27年のニュース

- ４月 ▶ 松尾先生が盛岡日赤へ、そして八重樫先生が帰局。
- ４月 ▶ 浜松医科大学から２年間の国内留学で上嶋先生が加入。
- 12月 ▶ １年間（正確には１年10ヶ月）縫合不全ゼロを達成

平成27年 診療・研究状況報告

●**手術数（全麻）**：272例

＊そのうち大腸癌手術（切除）は209例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（100例）	開腹	14例
	腹腔鏡	86例
直腸癌（109例）	開腹	13例
	腹腔鏡	93例
	経肛門	3例
＊Rb癌47例	肛門温存34例	温存率72%
FAP	腹腔鏡下大腸全摘	1例
Crohn病	腹腔鏡下手術	7例
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡下大腸全摘	2例
他（大腸癌再発・ストーマ閉鎖・他科手術応援など）		53例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
結腸癌全手術数	111	102	100
直腸癌全手術数	79	90	109
計	190	192	209
腹腔鏡下大腸癌手術	168	173	179

●**平成27年研究報告**

《教室内》

・「腹腔鏡下大腸癌手術の小開腹創部位を標準化にするための検討」：2015 年12 月まで200例集積．臍縦切開による小開腹においても、SSI発生率は増えることなく、整容性における患者満足度は高かった。 2015年消化器外科学会，内視鏡外科学会で報告。今後英文論文報告を予定している。

・「腹腔鏡下大腸癌手術における術前腸管前処置の検討－第Ⅱ相試験－」：2015年12月まで80例集積中。2015年消化器外科学会，内視鏡外科学会で報告。今後英文論文報告を予定している。

・「高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術」：80歳以上の高齢者と60－70歳の大腸癌患者に対する腹腔鏡手術の妥当性をretrospectiveに解析．高齢者に対してこそ、腹腔鏡手術が適応である。2016年英文投稿中。

《全国多施設共同研究》

▶JCOG

・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（ENCORE Trial）」：症例集積中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

・「肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第Ⅱ相試験－ULTIMATE TRIAL－」症例集積中

●**今後の課題**

▶臨床面

・再発直腸癌への積極的な腹腔鏡手術

▶教育面

・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成

・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

▶研究面

・学会発表、研究成果の論文化

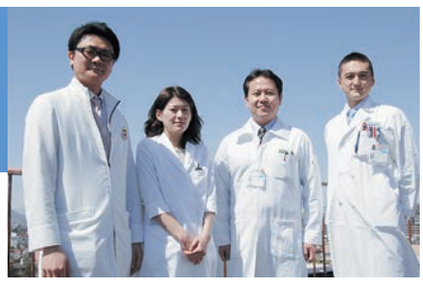
・大学院生への研究・学位指導

乳腺グループ

STAFF：小松英明・石田 和・川岸涼子・松井雄介
稲葉 亨（非常勤講師）

専門外来
火・水曜日
8時30分－17時

ブレストケア外来
水曜日
14時－16時（予約制）



乳腺グループはこれまで長きに渡り、柏葉匡寛先生がチーフとして岩手県のみならず東北地方の乳癌診療をリードすべく、質の高い手術、薬物療法を実践され、地域への貢献を頂いておりました。しかし非常に残念ながら柏葉先生がご退職されたため、平成28年4月より小松、石田、川岸、松井の新体制でのスタートとなりました。また、秋田赤十字病院乳腺外科より、我々の同門であります稲葉亨先生に非常勤講師として定期的に来盛いただき、御指導を頂いております。引き続き、JCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループや、開発治験にも積極的に参加し、患者さんにいち早く最新の治療を提供すると共に、新たなエビデンスの確立に貢献をしてまいります。

平成27年のニュース

- 3月 ▶ 第12回日本乳癌学会東北地方会発表（柏葉、小松、石田）
- 7月 ▶ 第23回日本乳癌学会学術総会発表（柏葉、小松、石田、川岸）
- 12月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposium参加（柏葉）

平成27年 診療･研究状況報告

●手術数：184例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	98例
	胸筋温存乳房切除術	71例
	乳腺全摘術＋組織拡張器留置	15例
計		184例

《年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
原発性乳癌	175件	167件	184件

●平成27年研究報告

《全国規模》

・Cinderella研究会：手術可能乳癌患者を対象としたフローズングローブ、弾性ストッキングのnab-paclitaxelによる末梢神経障害予防効果の検討（Phase II、SPOT trial）

・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017（PRIM-BC）「薬物療法非抵抗性Stage IV乳癌に対する原発巣の意義（原発巣切除なしvsあり）に関するランダム化比較試験」

・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204（INSPIRE）「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第III相試験」

・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「転移・再発乳癌に対するタキサン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験（SELECT BC）」

・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（N-SAS BC 06）」

・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（N-SAS BC 06）」

・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験（N-SAS BC 07）」

・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-C05（B-SHARE）「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキ

セルの併用療法の有用性を検討する観察研究」

・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-M04（BOOSTER）「ホルモン陽性HER2進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ＋パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第III相臨床試験」

・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-20（Neo-Peaks）医師主導治験「HER2陽性乳癌におけるペルツズマブとトラスツヅマブエムタンシンを用いた術前療法の検討（ランダム化第II相試験）」

・OlympiA試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験」

・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ（ペルツズマブに対し盲検）の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際他使節共同第III相ランダム化3群比較試験（MARIANNE試験）」

・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法＋トラスツズマブ＋プラセボと化学療法＋トラスツズマブ＋ペルツズマブの2群比較第III相ランダム化試験（APHINITY試験）」

●今後の研究課題

・乳腺専門医育成

・乳癌原発および生検組織でのKI67-LIの変化と臨床的有用性の検討

・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定

リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF：西塚 哲･岩谷 岳･久米浩平･佐藤 慧･大森幸美
伊藤千絵･天野 総･杉立彰夫･鈴木悠地（肝臓内科より学位研究のため参加）

専門外来

外来なしの
24時間営業

大学院生を中心とした今までの構成から、2015年は臨床グループの有志を加えた構成に変化してきました。抗癌剤の効果判定・予測診断や術後再発の早期発見に向けたバイオマーカーの同定を目指しています。

平成27年のニュース

- ４月 ▶ 西塚、岩谷、佐藤慧、アメリカ癌学会で発表（フィラデルフィア）。
- ６月 ▶ ４年生ラボ配属トレーニング開始。参加４名。うち２名は九州大学別府病院にて学外研修（三森教授をはじめ外科教室の皆様どうもありがとうございました！）
- ９月 ▶ 久米、西塚、癌細胞集団プロファイル技術等に関する特許出願。
- 10月 ▶ RPPA 2013 Global Workshop開催（米国バージニア州マナサス、逆相タンパクアレイの国際ワークショップ）。

平成27年 診療･研究状況報告

●抗がん剤感受性試験：０例（減少しています）

●医学部４年生受入数：４名

●平成27年研究報告

《教室内》

・「薬剤耐性細胞のstochasticな出現ルールに関する研究」：久米浩平

・「新規タンパクアレイを用いた薬剤耐性細胞の分子生物学的プロファイル」：久米浩平

・「癌性腹膜炎抑制に働く転写複合体因子とその阻害剤の同定」：久米浩平

・「血中遊離腫瘍由来DNA定量による大腸癌体内腫瘍量モニタリング」：佐藤慧

・「進行胃癌におけるPIK３CAの変異とPI３Kリン酸化における役割」：伊藤千絵

・「新規癌抑制遺伝子TMPRSS11の解析」：天野総

・「血中遊離腫瘍由来DNAの食道、胃、大腸、膵臓癌における臨床需要に合致したバイオマーカーとしての可能性の検証」：遠藤史隆、八重樫瑞典、千葉丈弘、武田大樹、岩谷岳

・「肝切除後再生における胆管増生反応の役割」鈴木悠地

《共同研究》

・「傷害肝再生に関わる骨髄間葉系多能性幹細胞に関する研究」東北大学との共同研究：片桐弘勝 - 終了

・「胃癌術後補助化学療法の異種同所移植モデル確立と分子標的の同定」民間企業および米MDアンダーソン癌センターとの共同研究：石田馨

・「胃癌根治術後補助化学療法効果予測バイオマーカーに関する後ろ向き臨床研究（NJバイオマーカー研究）」岩手医科大学関連施設、および市立札幌病院、山形県立中央病院、仙台オープン病院との共同研究。解析中：西塚　哲

●今後の研究課題

従来通り、外科分子治療研究室では

１．どうして癌は再発するのか？

２．どうして傷は治るのか？

３．見えない癌は見つけられないのか？

という大きな疑問に答えるべく研究を進めます。大きな課題ですが、少しずつ成果が出始めています。がんの再発に関しては、治療後再発に関する技術開発および分子とその阻害剤の同定で久米が２報（J Proteome Res, 2016; Sci Rep, 2016）、肝臓の創傷治癒・再生に関しては片桐（American J Transplant, 2016）、および見えない癌を血中遊離DNAで検出する技術に関連して佐藤慧（PLoS One, 2016）がそれぞれ発表します。いずれの研究も、癌の再発、肝再生、早期発見と社会的にも関心の高い我が国の医療におけるトピックに関するものです。今後は、臓器ごとの臨床的需要に的を絞り、早期の臨床展開を目指すとともに、培った技術の普及・発展を目指します。

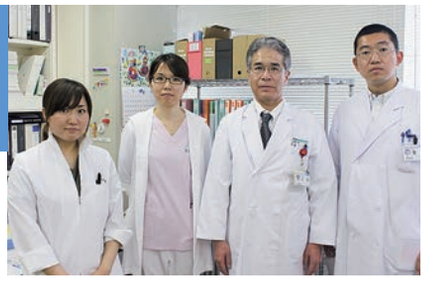
www.nishizukalab.org

小児外科グループ

STAFF：水野 大・有末篤弘・小林めぐみ

専門外来

火曜・金曜
10時-12時



一般小児外科外来：これまで同様，原則，火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としておりますが，他の曜日・時間も手術，検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第４火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら，人工肛門を有する患者様や，直腸肛門奇形術後，神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、洗腸による排便コントロールの指導等をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各５人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成27年のニュース

- ４月 ▶ 福島県立医科大学より伊勢一哉医師が特任講師として着任
- 10月 ▶ 弘前大学小児外科への手術支援開始

平成27年 診療･研究状況報告

●**入院数**：191例（小児科入院での手術増のため）

●**手術数**：251例（うち内視鏡下手術36件、14％）

《内訳》 重複あり

疾患	術式	症例数
新生児症例		22例
悪性腫瘍	生検含む	12例
鼠径ヘルニア類縁疾患		64例
消化器・肝胆膵疾患		40例
呼吸器/泌尿器疾患		22例/16例

《年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
新生児	9	20	22
非新生児	222	250	229
計	231	270	251

関連施設・他大学での手術：60例

●**平成27年研究報告**

《教室内》

・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発
・大動物を用いた小児腹腔鏡下手術教育
・門脈血流測定による新生児腸管虚血の早期発見

《全国規模》

・JNBSG　日本神経芽腫芽腫研究グループ
　高リスク神経芽腫臨床試験
・JPLT３　日本小児肝癌スタディグループ
・JWiTS３　日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
・JCCG　日本小児がん研究グループ

●**今後の研究課題**

・門脈血流測定による新生児消化管穿孔の予防

高度救命救急センター

STAFF：小鹿雅博・石田 馨
佐藤寿穂（救急医学講座）・天野 怜

専門外来

24時間体制

専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2015年当グループにおける全手術に対する腹腔鏡手術を第一選択とした割合は31％でした。

平成27年のニュース

- ３月 ▶ 西成悠先生帰局
- ４月 ▶ 吉田宗平先生着任
- ５月 ▶ 研修医　天野怜先生が配属
- 11月 ▶ 研修医　棚橋洋太先生が配属

平成27年 診療・研究状況報告

●**入院数**：143例

●**手術数**：128例

《内訳》

疾患（内因性）	術式（第一選択として）	症例数（例）
上部消化管穿孔	鏡視下術	5
イレウス	鏡視下術：開腹術	15：3
虫垂炎	鏡視下術：開腹術	11：1
下部消化管穿孔	開腹術	7
急性虚血性疾患	鏡視下術：開腹術	8：3
嵌頓ヘルニア	開腹術	4
その他	開腹術	20

疾患（外因性）	術式（第一選択として）	症例数（例）
横隔膜損傷	鏡視下術	1
腹腔内臓器損傷（消化管損傷）	開腹術	25
その他	開腹術	8

	症例
気管切開術	12
大動脈遮断術	5

●**平成27年研究報告**

《教室内》

・術後敗血症に対する人工膵臓を用いた血糖管理（継続）
・Fluid Challengeに伴う血糖値変化の検討
・LPS刺激によるendotoxin中和能の検討（継続）
・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。
（S100A12,HMGB1,sRAGE,AGE,MCP1の特異的変動）（継続）
・消化管穿孔による腹水培養と感染マーカー及び重症度の整合性について（継続）

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：飯島 信

専門外来
午前外来、第2･4水曜／中屋 勉先生、毎週金曜／天野 総先生、月曜･木曜午後 手術

当院では常勤医や他科専門外来の減少により、外来・入院数、手術症例数の減少が続いていることもあり、ついにH27.4月より１人体制となりました。しかし北上済生会病院の細井先生に手術の御指導、応援に来ていただき、私の出張日の外来には小松先生をはじめ、医局の若手の先生方に応援に来ていただき、大変感謝しております。昨年はこれまで同様、花巻、北上地域の先生方からの患者様の紹介以外にも、緩和医療学科の木村教授を通じて、外科だけでなく他科の患者様も紹介いただき、大変お世話になっております。

１人体制は大変ではありますが、様々な経験、勉強をする良い機会と考え、日々の診療を頑張っていきたいと思います。今後とも御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成27年のニュース

- １月 ▶ 新田先生、片桐先生に肝右葉切除、Ｓ３部分切除術執刀頂く。
- ３月 ▶ 細井先生退任。
- ４月 ▶ 飯島１人体制に。
- ９月 ▶ 外科手術室の手術台を一新。

平成27年 診療･研究状況報告

●**入院数**：76人

●**手術数**：51例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌	開腹切除術	0例
	腹腔鏡下手術	6例
直腸癌	開腹腹会陰式直腸切断術	1例
	人工肛門造設術	2例
転移性肝癌	開腹肝右葉切除術	1例
胆石・胆嚢炎	腹腔鏡下胆嚢摘出術	5例
イレウス	開腹手術	2例
急性虫垂炎	腹腔鏡下手術	1例
鼠径ヘルニア	鼠径法 (D-Kugel,Plug-Mesh)	3例
	腹腔鏡下手術（TAPP）	15例
直腸脱	直腸脱手術（経肛門）	2例
毛巣洞	根治術	2例
	その他全麻手術	5例
	CVポート埋め込み術	4例
	PTEG	1例
	その他局麻手術	1例

《年次手術数推移》

	2013年	2014年	2015年
胃癌	9例	2例	0例
結腸癌	10例	8例	6例
直腸癌	3例	5例	3例
転移性肝癌	0例	1例	1例
乳癌	2例	0例	0例
胆石・胆嚢炎	6例	7例	5例
イレウス	3例	0例	2例
鼠径ヘルニア	22例	26例	18例
その他手術	11例	8例	16例
計	66例	57例	51例

入院患者分類

疾　患		例　数
顔面・頸部		1
甲状腺・上皮小体	良性	2
	悪性	1
乳 腺	良性	4
	悪性	222
食 道	良性	8
	悪性	175
胃・十二指腸	良性	11
	悪性	231
大腸・肛門	良性	11
	悪性	272
肝・胆・膵・脾	良性	110
	悪性	251
イレウス		27
虫垂炎		15
ヘルニア・腹壁・腹膜		10
副 腎		6
病的肥満		51
その他		44
入院者合計		1,452

関連病院手術件数

病院	全手術例数	全身麻酔件数	緊急手術数	腹腔鏡下手術数	甲状腺癌	乳癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,409	1,183	136	516	8	170	20	108	28	24	230
盛岡赤十字病院	691	648	142	317	3	29	1	31	8	1	80
盛岡友愛病院	578	477	33	42	11	155	0	3	0	0	24
盛岡市立病院	568	505	48	358	0	8	0	20	6	9	82
八戸赤十字病院	490	429	32	150	1	42	0	41	8	8	93
能代厚生医療センター	436	383	63	269	13	19	0	49	11	7	65
県立釜石病院	436	323	74	134	6	16	0	21	4	0	62
県立久慈病院	398	320	60	112	1	23	1	22	9	4	75
県立宮古病院	394	336	88	96	1	16	0	32	1	1	75
県立二戸病院	313	263	57	80	0	0	0	19	2	6	46
かづの厚生病院	215	112	22	37	3	10	0	18	4	0	47
県立千厩病院	175	115	30	42	3	7	0	3	2	0	18
県立江刺病院	175	73	11	56	0	8	0	3	0	0	15
北上済生会病院	127	76	4	47	0	12	0	3	0	0	2
花巻温泉病院	50	42	1	26	0	0	0	0	0	1	8

手術件数

	件　数
全麻数	1,133
局麻数	66
その他	0
全手術数	1,199

外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2016. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2016. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2016. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2016. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2016. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2016. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2016. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2016. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立千厩病院	～ 2016. 12
指定	盛岡友愛病院	～ 2016. 12
指定	能代厚生医療センター	～ 2016. 12
関連	岩手県立宮古病院	～ 2016. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2016. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2016. 12
関連	国保西根病院	～ 2016. 12
関連	内丸病院	～ 2016. 12

日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2016. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2016. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2016. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2016. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2016. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立二戸病院	～ 2016. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2016. 12
指定	能代厚生医療センター	～ 2016. 12

外科学講座
天野　怜

出 身 大 学：岩手医科大学　　大学卒業年：平成14年度
出　身　地：三重県　　座 右 の 銘：初志貫徹
岩手医科大学外科に入った理由：

学生の臨床実習を経て外科に非常に興味を持ちましたが、研修医を含めどこで外科医を目指すかということに関しては非常に悩みました。しかし、本学外科学講座の先生方の高い技術力を学びたいと思い本学での入局を決意致しました。

現在、研修医が終了し外科学講座の医局員としてスタートを切りましたが、まだまだ若輩者であり、先生方にはご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命精進してまいりますので、何卒御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

外科学講座
畑中 智貴

出 身 大 学：岩手医科大学　　大学卒業年：2014年
出　身　地：盛岡市　　趣　味：ドライブ、映画鑑賞　　座 右 の 銘：折れない心
岩手医科大学外科に入った理由：

岩手医科大学外科に入局した理由は数多くありますが、やはり学生時代に医局員の先生方の真摯に働く姿に触れ、純粋に憧れを抱き、付いて行こうと思えたことが大きいと思います。また私自身地域枠という枠組みで入学していることもあり、制度こそ違いますが同様の地域の奨学金制度で学生時代を過ごし、現在地域の医療に貢献する手本とすべき先輩方が多くいらしたことも決め手になりました。

現況とこれからの意気込み：

現在、私は函館五稜郭病院での充実した研修生活を終え、４月から大学の肝胆膵グループをローテートしながら下部消化管領域での学位研究を開始させていただいております。今後は数少ない外科入局の同期と切磋琢磨しながら、一つ一つ確実に外科医として必要な知識、技術を習得しつつ成長していきたいと考えております。医師としても社会人としてもまだまだ至らない点も多く、諸先生方にはご迷惑をおかけすることが多いかとは思いますが、精進させていただく所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

外科学講座
二階 春香

出 身 大 学：弘前大学　　大学卒業年：2011年
出　身　地：青森県　　座 右 の 銘：有言実行
岩手医科大学外科に入った理由：

私が外科医を目指したきっかけは、初期研修の時に出会った指導医の存在でした。とても繊細で丁寧な手術をする先生で、熱心に指導していただき、私もそんな綺麗な手術ができるようになりたい、と外科医を目指し、初期研修後に弘前大学消化器外科学講座に入局いたしました。医師５年目までは弘前大学とその関連病院で勤務しておりましたが、今回、自身の婚約に伴い、岩手医科大学外科学講座にお世話になることとなりました。受け入れてくださった佐々木教授をはじめ、教室員の先生方にはとても感謝しております。この新たな出会いを大切に、精進していきたいと思います。慣れないことばかりでご迷惑をおかけしますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

― 喜寿を迎えて ―

齊藤 和好

岩手医科大学名誉教授 岩手リハビリテーション学院

平成11年に、還暦の祝をやっていただいたことが、昨日のようになつかしく思い出されます。

又、この度も医局の皆様方から、喜寿の祝まで催していただきまして、ありがとうございました。もはや立派な（？）後期高齢者の１人となりました。

岩手医大第１外科にて18年間の長きに亘って無事に教授職を務めることができたのも、皆様の御協力のお蔭と感謝しております。

又、最後５年間の学生部長職も楽しい思い出の一つでありました。

心配していた外科の新任教授も、大学当局のお計らいにより、医局内から主任教授として佐々木章先生が選ばれ、更に木村教授、肥田准教授、大塚・新田の特任准教授も誕生し、医局内は磐石の体勢となりました。素晴らしいことです。

今後、岩手医大は、病院の矢巾移転、看護学部合併等全般にわたって多忙でしょうが、診療・教育・研究等の全分野に努力し、医局の発展、ひいては大学全体の発展に寄与することを希望致します。

特に診療面では、手術法の進歩に遅れないように、教育の面では、国試の成績向上に努めて、更に医局員を増員させて欲しいと願っております。

私自身は１外退職後、北上済生会病院に７年10ヶ月お世話になり、現在は、岩手リハビリテーション学院長として、当学院や関連施設での嘱託医、講義等を受持っております。

外科教室に入った経緯について、少しお話をしましょう。

以前、「座右の銘」を求められた時に「熟慮断行」と、ある雑誌に載せたことがありました。あまり意気地のある方でもなかったし、母親が産婦人科・内科の開業医でもあったので、外科は・・・・？とも考えましたが、内科をやるには、外科の知識も必要だろうと考え、更に１年上にはすばらしい軟庭部（ソフトテニス）の先輩もいらしたので、当時の第１外科に３人の同級生と一緒に入局しました。

その後、医聖華岡青洲の名言「内外合一、活物究理」に出会い、自分の考えは間違っていなかったと確信し、頑張り続けたものでした。

因みに先日、第102回日本消化器病学会（東京）にて、新専門医制度が近々、施行されるだろうというトピックスクスがありました。

即ち、専門部門だけでなく、subspecialityにも精通する総合診療医のような、幅広い医師を目指してほしいという内容でした。

外科学教室員の数が更に増加し、質的にも発展して大学へも大きく貢献されんことを期待しつつ、外部から、見守り続けます！

巌刀会学術賞を受賞して

遠藤 史隆

この度は平成27年度同門会学術賞を受賞させて頂き、心より感謝申し上げます。会長の佐々木章教授、同門の先生方、医局の先生方に深く感謝いたします。

今回の受賞論文は、A Compensatory Role of NF-kB to p53 in Response to 5-FU-Based Chemotherapy for Gastric Cancer Cell Lines.（PLOS ONE. February 2014, Volume9, Issue2, e90155）というものです。2012年に、当教室の石田和茂助教、西塚哲講師が研究され、胃癌術後の5-FU系補助化学療法後の再発予測マーカーとしてNF-kBを同定し発表されました（PLOS ONE, August 2012, Volume7, Issue8, e43236）。今回、私はそれをもとに、胃癌細胞株を用いてNF-kBの状態と5-FUとの関連を検証し、NF-kBの再発予測マーカーとしての妥当性を評価しました。NF-kBは5-FU刺激で核内へ

誘導されましたが、誘導を確認した10遺伝子のうち５つがp53の下流遺伝子でありました。in silicoでの遺伝子プロモーター解析で、NF-kBとp53の両方が5-FUによる誘導に関わっていると予測できました。NF-kB構成因子のp65をノックダウンすると、p53の発現も低下しました。NF-kB のp53結合に重要であるcodon72がPro/Pro多型の場合、5-FU感受性が低い傾向がありました。以上から、NF-kBは5-FUに対する反応ではp53より重要で、p53に変異を有する細胞ではNF-kBが代償的な機能を果たしていると推察されました。従って、NF-kBを5-FU抵抗性マーカーの一つの候補とすることは妥当である、という結論に至りました。この結果も根拠の一つとなり、Stage II/III 胃がん治癒切除後TS-1術後補助化学療法のおけるNF-kBおよびJNKタンパクの効果予測因子としての有用性についての研究（NJバイオマーカー研究）が実施されました。

今後は、さらに臨床・研究に研磨し邁進していく所存であります。最後に、研究・論文を指導して頂きました外科学講座の西塚哲講師、研究・技術的指導を頂きました岩谷岳講師、久米浩平助教、ともに研究に打ち込んだ片桐弘勝助教、石田馨助教、そして佐々木章教授に深く感謝いたします。

第42回日本臓器保存生物医学会学術集会を盛岡で開催しました

新田 浩幸

第42回日本臓器保存生物医学会学術集会を近藤丘会長（東北薬科大学病院院長）のもと、平成27年11月13日（金）と14日（土）に、盛岡駅前のいわて県民情報交流センター（アイーナ）を会場として開催させて頂きました。懸念された天気と気温ですが、初日は晴れ、二日目は小雨と大きな天気のくずれと寒さもなかったことが何よりでした。学会のテーマは「移植医療の推進にむけて」で、本学会理事・評議員の先生のお力添えもあり、シンポジウム演題23題、一般演題21題と十分な演題数を頂き、また、理事長・会長講演、特別講演３題、研究奨励賞受賞記念講演３題、ランチョンセミナー２題と、学会テーマに沿った多岐にわたる領域のセッションを組めたと思います。

初日はシンポジウム中心の構成でしたが、充実した発表と議論の連続でした。ランチョンセミナーでは、脳死臓器提供の現場を振り返ってというテーマで岩手医科大学における脳死臓器提供第１例目を事務目線と看護師目線で臨場感あふれる発表をして頂きました。別会場では院内コーディネーター研修会が８名の参加者のもと開催され、岩手医科大学医学部の学生（５年生）も参加しました。

二日目は一般演題を中心とした構成でしたが、この日も発表演題に対する熱心な討議が続きました。理事長・会長講演では、近藤丘会長より思いに残る肺移植というテーマで、日本での肺移植の立ち上げから苦労された症例など、手探りで歩んだ肺移植の現場を熱くご発表頂きました。また、特別講演では西塚哲先生（岩手医科大学外科分子治療研究室）よりMuse細胞による肝切除後細胞補填療法の可能性に関する講演がありました。

会長交代があるなど準備段階でみなさまにご心配をおかけしましたが、本学会を無事終了することができ、教室スタッフ一同ほっとしております。巌刀会には開催費用の面でお世話になりました。また、斉藤和好名誉教授には会長招宴にご臨席頂きました。あらためて、この学会を開催するにあたってご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

国内留学レポート

上嶋　徳

浜松医科大学外科学第二講座　大腸グループ

長野県出身、平成20年度岩手医科大学卒業の上嶋　徳と申します。

内視鏡外科技術認定医取得を目標とし平成27年４月から静岡県浜松市の浜松医科大学外科学第二講座より岩手医科大学外科学講座、下部消化管グループに国内留学という形で学びに来ております。

私自身、医学部に入学した時点では整形外科医を目指しておりました。五年生の臨床実習で大塚幸喜先生の手術に大変感銘を受け消化器外科医を目指すことになった経緯もあり、今回、大塚幸喜先生の下での研修を熱望いたしました。留学のオファーを快く受けていただきまして大変感謝すると共に、必ずや２年間で技術認定医を取得し帰局する事を心に誓ったとことを覚えております。

学生時代の臨床実習から10年が経過しておりましたが、当時と同様に大塚幸喜先生の手術は大変刺激的なものでした。無駄のない鉗子操作、的確な剥離・血管処理。学会や研究会で拝見する、全国の消化器外科医がお手本とする手術手技でした。

研修が始まると大塚幸喜先生がポイントごとに解説を入れながら執刀されている手術画像を頂きました。まずは下部消化管グループで作り上げてきた定型化の手技を徹底的に覚えるところから研修が始まりました。

スコピストとして手術に参加し、カメラ操作を学び、その後に執刀という流れになりました。

定型化手技は技術認定医を取得された木村聡元先生、箱崎将規先生のみならず平成21年度卒の八重樫瑞典先生にも享受されており、若手外科医の手術手技向上に大きく貢献しているものと思われました。

また、定期的に行われるビデオクリニックでは手術に参

加出来なかった先生からの助言もいただき自分の手技の至らない点が浮き彫りになり次回の手術の課題とすることができました。

私自身、学生時代を岩手で過ごした事もあり、帰ってきたという実感がありました。母校を出て遠く離れた静岡の地で研修をし、浜松医科大学外科学第二講座に入局した私にとって、医局はホームであるようなアウェイであるような複雑な場所でした。岩手医科大学外科学講座は母校の医局であり先輩・後輩も多く、国内留学とはいえ、ホームに帰って来たかの様な気持ちで参りました。そんな図々しい私を下部消化管グループの先生方のみならず他のグループの先生方にも暖かく迎えていただき大変感謝しております。

そして、母校の後輩である学生の指導に携わることで私自身得るものも多く、これからも後輩の育成にも尽力していかなければと実感しております。

早いもので１年が経過し、限られた留学期間も残すところ１年となりました。岩手での仕事を楽しみつつ、残された時間を大切にし、少しでも多くの事を学び、吸収していこうと思います。

最後になりますが、今回の研修を許可して頂きました大塚幸喜先生をはじめ、日々ご指導頂いております佐々木章教授をはじめ医局員の先生方、医療スタッフの方々に心より感謝申しあげます。

海外活動レポート

ウガンダ北部医療支援事業に参加して

杉村 好彦

盛岡赤十字病院　第一外科部長

昨年４・15から８・13までウガンダ北部カロンゴ村にあるDr.Ambrosoli Memorial Hospitalで現地の人たちへ医療指導、実際の診療を行ってきました。

すでに出国から１年以上が過ぎ、かなり記憶もあいまいとなり、なかなか筆が進まない状況で、締め切りを延ばしてもらっておりました。そこで、皆さんにより正確に派遣の状況をお伝えする方法として、帰国翌日に日本赤十字社本社帰国報告を原文のままのせることとしました。少々長くなりますが、斜め読みしていただければと思います。

ウガンダ北部地区病院支援事業報告書（本社提出分）

報告日：　2015年８月14日
報告者：　杉村好彦　　盛岡赤十字病院第一外科部長
活動地：　ウガンダ共和国パデル県　カロンゴ病院
（Dr. Ambrosoli Memorial Hospital）
本報告書における活動期間：2015年４月16日～同８月13日
期間中の派遣要員：渡瀬淳一朗
大阪赤十字病院（～５/17）
塚本加奈子
武蔵野赤十字病院（７/９～）

本事業は近年の日本赤十字社としては新しい事業スキームである、平時における医師による役務提供という形であるとともに、拠点病院が本社から業務依頼を受けて事業実施に加わるという初めての試みである。その事業もあと約半年で終了予定である。これらを踏まえ本報告書では、本派遣員の活動内容、現地での医療の変化、および終結に向けての若干の私見を報告する

1.　活動内容

2015年４月21日より、同８月９日までカロンゴ病院での活動を行った。期間中、前半約４週間は渡瀬先生、後半約４週間は塚本先生との二人体制、中間の２ヶ月は一人体制であった。

①　手術器具の供与

このmissionが残り半年強ということを考え、あえて日本からの物品は持ち込まず、現地のDr.が必要と思われるものを現地で購入してもらうようにした。

②　現地の外科医師

最初の約１か月はDr.Opiyo（３年目MO）と一緒に診療に当たる。５月後半からDr.Opiyoは内科へ移動、代わりにDr.Daniel（10年目MO、整形外科の専門医を目指す）が来て、最後まで一緒に診療に当たった。

また、インターンDr.Ojyokも後半約１か月強一緒に研修していった。

この二人はそれぞれKitgum、Lira出身のAcholi Docterである。

③　手術

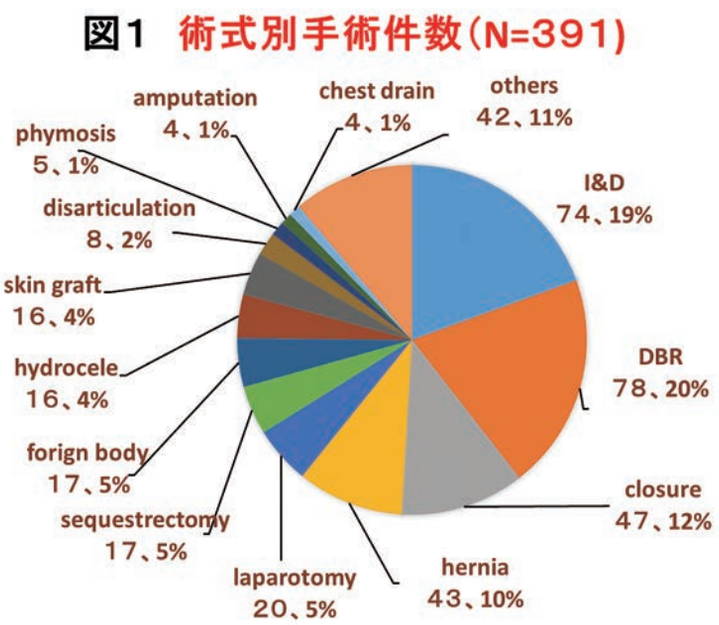
対象疾患は原因は定かではないが、皮下、筋膜下膿瘍が多く、しかもこれらはすぐに病院には来ず、病院に来れるようになってから来るため、悪化しての受診が多い。ヘルニア、陰嚢水腫がこれに続く。また、開腹手術も以前に比べ多いような気がした。日本で分類される診療科としては、一般（腹部）外科、整形外科、形成外科、小児外科、眼科、耳鼻科、歯科、泌尿器科、脳外科、呼吸器外科の11科にわたる疾患が治療対象となった。

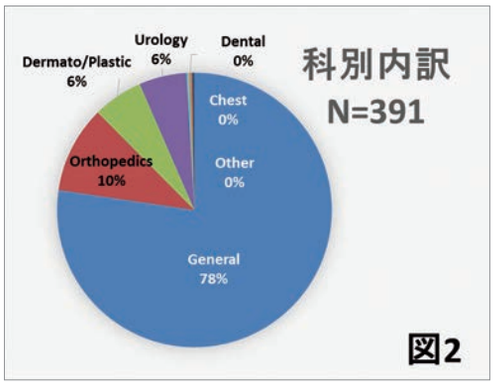
2015.5.1～7.31の総手術件数は391件であった。平均年齢は26.8歳（０－87）、男女比は約６：４であった。平均年齢が低いのは、子供の手術が多く見られたからと思われる。なお、この統計は手術室使用での件数であり、この他に病棟Side Room、POP Roomでも多くの小手術、整形的処置

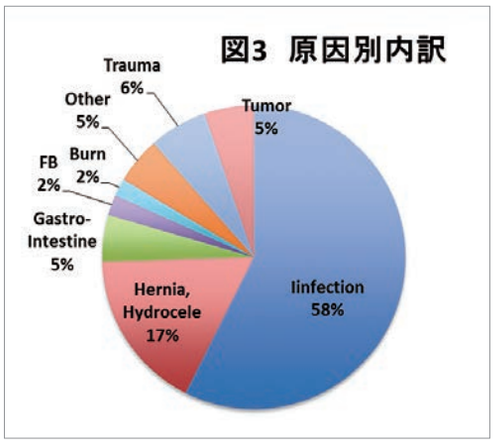
を行った。これらはほとんどが局所麻酔で行われたが、全身静脈麻酔が必要な時は、Theater Staffに来てもらって麻酔をかけて処置施行した。

以下に、術式別（図１）、科別（図２）、原因別（図３）の手術内訳を示す。

以前の要員の報告と比較して、infection手術が増え、Trauma関連の手術が減った。緊急開腹手術が多かったように感じる。外傷性肝胆嚢損傷、外傷性脾損傷、腸重積、十二指腸潰瘍穿孔、絞扼性イレウス、ヘルニア嵌頓による小腸破裂、外傷性肺損傷などが含まれる。また、Skin graftも増え、SSGのみならず、Full Thickness skin graftも施行するようになった。７月中旬までBurnはほとんどいなかった割に植皮が多いのは、大きな開放創をCleanになった段階ですぐに閉鎖しようというように処置が変化してきているように思われる。







④　手術の運営

いろいろな場面と同様なかなか時間が守られず、休みも多く、患者さんの中には待ちきれず食事をしてしまい、延期になることがままあった。効率よく運営できる組織づくりが必要。

手術器具に関しても、数の不十分さに目をつむったとしても器具の不備が目立つ。消毒を含め、もっと組織立てて在庫管理など運営する方向に動く必要があると考えられた。

⑤　入院患者

毎日数人入院がある。重傷、緊急処置が必要な場合はCallされるが、週平均すると１例くらいか。続くとき、数例重なる時もあった。すぐに緊急手術となったケースも数例あった。それ意外はOn Call Dr.や病棟の夜勤看護師の判断で指示が出され、翌朝病棟に行って初めて入院がいたことに気付く。

すぐに小手術が必要と判断しても、アテンダントがいなかったり、お金がなかったりで処置ができないときもあった。

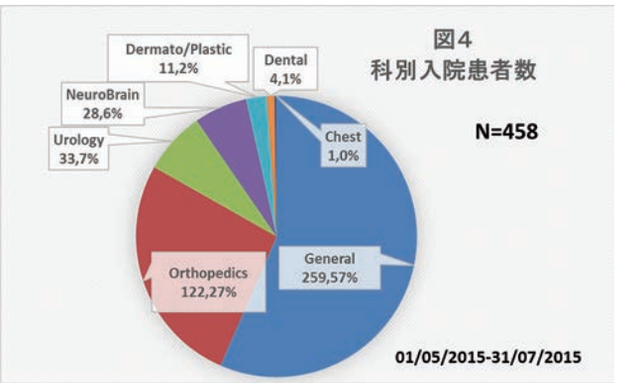
2015.5.1～7.31までの総入院患者数は458人であった。以前の報告と比較して平均約１人/日少ない入院であった。平均年齢は30.8歳（0－87）、男女比は6.5：3.5であった。平均在院日数は5.7日であった。これはDataの入力状況から単純には

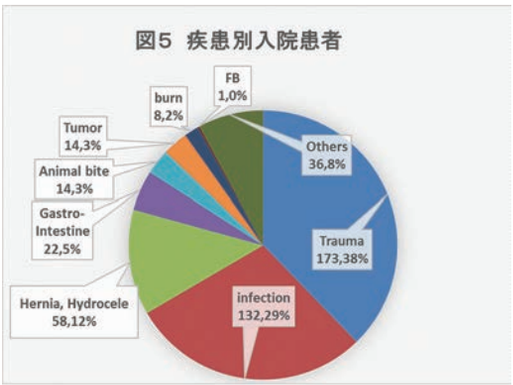
比較できないが、前回の報告と比べ約１日短かった。

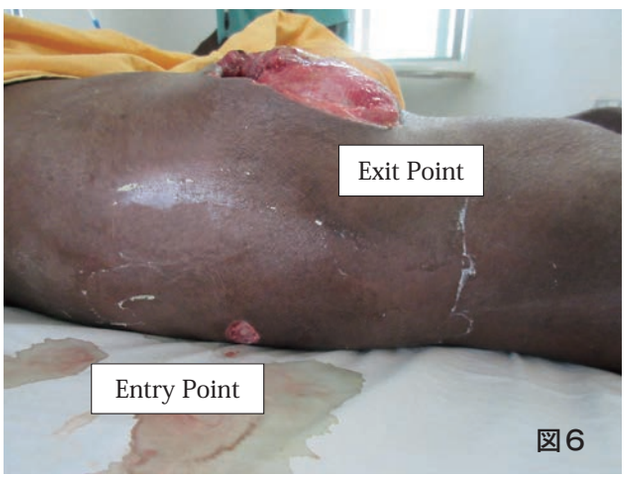
以下に、科別（図４）、原因別（図５）を示す。

以前の要員の報告と比較して、科別、原因別共に入院患者の傾向に差はなかったが、疾患別でTraumaが減った分がそのまま入院患者の減少につながっているようだった。事故が少なかったということかな。

Gunshot Wound（図６）を経験した。弾はおそらくFull jacket metalでEntry Pointは小さく、Exit Pointはとてつもなく大きな創で、大腿骨は粉砕骨折。DBR + POP後、KumiにRefer。







⑥　回診

現地語に関しては、Staffが通訳してくれてあまり問題になることはなかったが、細かい内容になるとお手上げであった。本派遣員も少々ながらAcholi語を覚えた。

その日のStaffによってやりやすさが違うのは日本も同じかも。ただ、あまりやるきのなさそうな人がまれにいて、その人の時には少々時間がかかった。

物品がない！抜糸もメスで、手で糸を引っ張って切る。危ない！足りないものはいつも同じ、定数化などの物品管理が必要。

清潔不潔処置を気にしているようだが、果たしてどうだろうか。かなり疑問に思う。これは根本的な教育の問題かな。

２．インターンの指導

派遣期間中、Dr.Ojyokが約１か月強一緒に診療した。彼はプライベートの病室を借りて寝泊まりし診療していた。いろいろお話、指導したり、官舎で一緒に食事、Kalonngo Hillにも上った。８月からインターシップをとり他病院（Guluが第一選択）を回ってMOになったらKalonngoに戻ってきたいようだ。同じLira出身のDr.Ronald（でかいやつ）もMaternityで研修していたが、一緒に手術に入ったり、Hillに登ったりと交流を深めた。

３．Man power

期間中、Anesthetist不在の時期があり、特に挿管必要な手術は他科手術も含め派遣員が担当、あるいはサポートが必要だった。７月中旬からDenisが来てくれて助かってはいるが、まだまだ人手不足（彼は日本人並みに働く）。

他、Dr.も含めすべての領域において人手不足ではあるが、組織がしっかりしていれば何とかなる部分も多いにあ

りそうだ。

4．他の医療機関

他の医療機関からの当院への紹介患者は、パデル県および近隣県のヘルスセンターからである。逆に期間中後送した患者は、主に隣県のグル県立病院（Raco）に紹介した。たまに悪性腫瘍疑う患者はKampalaのMurago病院にも送った。今までと違う点は、整形疾患で内固定の適応と判断し、金銭的に可能ならKumiの病院にもReferした。

近隣のHealth Center Ⅱ、Ⅲの見学に行った。施設によって多少の差はあるがみな地域医療に一生懸命であることをうかがえた。

5．医療の変化

4月に来た当初と5月Dr.Danielが来てからかなり変わった。開放創が減った。I&Dしても排膿なければ1～2日間で閉創して退院。陰嚢水腫、ヘルニア、摘出などは真皮埋没縫合で抜糸不要、Health Centerに抜糸のため通院不要。Sequestrectomyでもドレーンを入れて縫合閉鎖。今のTrendなのか、今後もそうなっていくのだろう。

6．生活

①　盗難

まずは謝罪しなければいけない。

7・21朝起きると今までの派遣員がコツコツとData入力していたMac PCがない。ドアの鍵をかけ忘れた。JRCS、URCS、病院関係に連絡。対応策を検討。たまたま渡瀬先生がすべてのDataをバックアップしており、File Makerでの修復は2015.4.30で途切れてしまったが、Exelでの修復は可能。

ただただ、謝るのみ。

ところが、7・31　PCが見つかった。事務長、Dr.Patientに呼ばれ行ってみるとMac PCがあった。病院スタッフ、教会を通じてKalongoの街中の人々が探してくれた。PC中身が日本語のため売れず、その情報から病院スタッフが見つけてくれた。

素晴らしい人たちだ！

②　日常生活

インターネット環境、停電を除けば大きな問題はなかった。土日はかなり時間を持て余す日が多く、本やDVDなどがあればよりよかったと考える。

7．謝辞

本事業の遂行に際し、惜しみない協力をいただいた、日本赤十字本社、李さん、中出先生をはじめとした大阪赤十字の国際救援部の皆様、Annet-Sanをはじめウガンダ赤十字社およびDr. Ambrosoli Memorial Hospitalのすべてのスタッフ，そしてドナーの皆様に心からの感謝を捧げる。

期間中最初に導いてくれ、更には失ったデーターをバックアップしてくれていた渡瀬先生、データー修復、整理に協力してくれた塚本先生に感謝申し上げます。

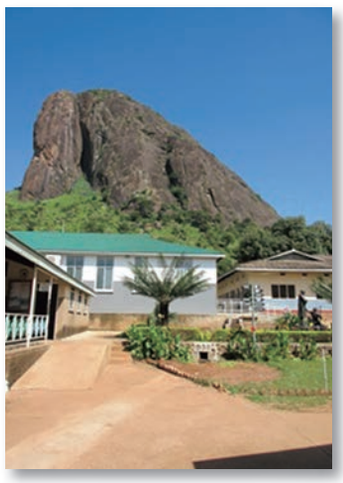
また、本事業への参加を快く了解してくれた、盛岡赤十字病院、岩手医科大学外科学講座の皆様にも感謝申し上げます。

もちろん本派遣員の家族にも。

（原文のまま掲載）

首都のホテルのレストランの朝食
左のプレートがスクランブルエッグ（白いたまご）ほか

以上、帰国報告でした。いろいろなことがありましたが、体調も崩さず、あっという間の４ヶ月でした。現在の医療とはかけ離れた世界かもしれませんが、検査機器がない、手術材料、器械がない中でどれだけのことができるのか、いまそばにあるものでいかにして病んでる人を助けるか、そこにはアイデアと想像力、経験そしてコミュニケーションが求められる世界でした。帝王切開もしました、骨も削りました、残念ながら開頭手術はありませんでしたが、より専門性の求められる現在の医療情勢に反してマルチな医者がいてもいいのかなと思います。これは災害戦傷医療にもつながる話で、興味のある先生たちがいれば、是非このような派遣に参加していただければと思います。



カロンゴ病院

出発前に仲間が作ってくれたポスター

手日報　2015年（平成27年）3月30日（月曜日）　社会（28）

医の心 国境越えて

盛岡赤十字病院・杉村医師

盛岡市三本柳の盛岡赤十字病院（松田壮正院長）の杉村好彦第一外科部長(57)が4月から約4カ月間、日本赤十字社（本社・東京都港区）のウガンダ北部医療支援事業に参加する。同事業に東北地方から医師が派遣されるのは初めて。東日本大震災直後の被災地で医療の確保を指揮した経験もあり、杉村医師は「医療人としての使命を伝え、医療体制の構築に役立ちたい」と決意を語る。

東北初、ウガンダ派遣

来月から「使命感伝えたい」

北海道深川市出身。「どこで何があっても人を助けられる医師になろう」と医学の道を志した。1989年に岩手医大大学院を修了し約20年間、盛岡赤十字病院に勤務。同病院への恩返しの思いも込め、人道支援事業への参加に手を挙げた。

派遣期間は4月15日～8月13日。ウガンダ北部アガゴ県で唯一の医療機関アンボロソリ医師記念病院で活動する。同県周辺は1986年から約20年続いた内戦が2008年にようやく収束した地域でもある。同県周辺約80万人の医療のよりどころにもかかわらず長期間外科医が不在だった同病院に、外科医療体制を構築することが事業の目的だ。

派遣後は診療のほか、同病院の運営や若手医師を教育する現地指導医の育成を担う。同病院では労働条件の悪さなどから病院の医師や看護師が突然いなくなり、診療に混乱をきたすことも珍しくない。「病院が自立するためには人々に医療の大切さや業務継続の意義を知らせることも重要な使命。日本の外科医がどんな思いで日々医療にかかわっているか伝えてきたい」と語る。

東日本大震災直後、陸前高田市で日本赤十字社の救護活動を統轄。内陸から医療体制の崩壊した被災地への薬の供給ルート構築に尽力した。「災害支援とは全く違う状況。震災の経験が役に立つかは分からない。ただ、人を助けたい思いは変わらない」。初心を貫く行動力で挑戦する。

4月からウガンダへの派遣が決まり「地元の医療人を育て、少しでも先進国に近づけたい」と貢献を誓う盛岡赤十字病院の杉村好彦医師

岩手日報　2015年3月30日掲載

和44年12月1日第三種郵便物認可）　盛岡タイムス　2015

岩手医大の分子治療研　Museの直接関与を解明

肝切除後細胞の修復・再生

片桐助教、西塚講師ら

岩手医大（小川彰理事長・学長）外科学講座分子治療研究室の片桐弘勝助教、西塚哲講師の研究グループは14日、多能性幹細胞の一種であるMuse（ミューズ）細胞が肝切除後の細胞の修復と再生に直接かつ独占的に関与していることを世界で初めて解明したと発表した。今後は生体肝移植などの外科手術後に、肝臓の再生・修復を早める目的でMuse細胞を血中投与する「細胞移植療法」などの発展に期待がかかる。

研究成果について会見する岩手医大外科学講座分子治療研究室の西塚講師（右）と高原武志助教

同日に盛岡市中央通1丁目の岩手医大創立60周年記念館で開いた会見で、西塚講師は「Muse細胞の注射は手術や薬に替わるものではないが、手術に安全性が担保された細胞移植療法を組み合わせれば、次の治療へのステップになる。回復を見込むのが難しいケースにも寄与できるのでは」と今後の展望を語った。

Muse細胞は、もともと骨髄や皮膚などヒトの細胞内に存在し、皮膚や筋肉、肝臓などのさまざまな細胞に分化できる幹細胞の一種。血中を循環し、さまざまな組織の細胞に変化し、体内で損傷した組織を修復する機能があることが知られていた。

岩手医大では生体肝移植（ドナーから切除された肝臓を患者に移植する手術）の後、再生した肝臓の中に患者由来の遺伝子が一定数含まれていることに着目。肝臓の外部から肝臓の修復・再生に関する細胞が供給されている可能性について研究を進めてきた。

実験では、肝臓を切除したマウスに、ヒトの骨髄に由来するMuse細胞を注射で投与。結果、Muse細胞のみが肝切除後の組織で肝臓を構成する細

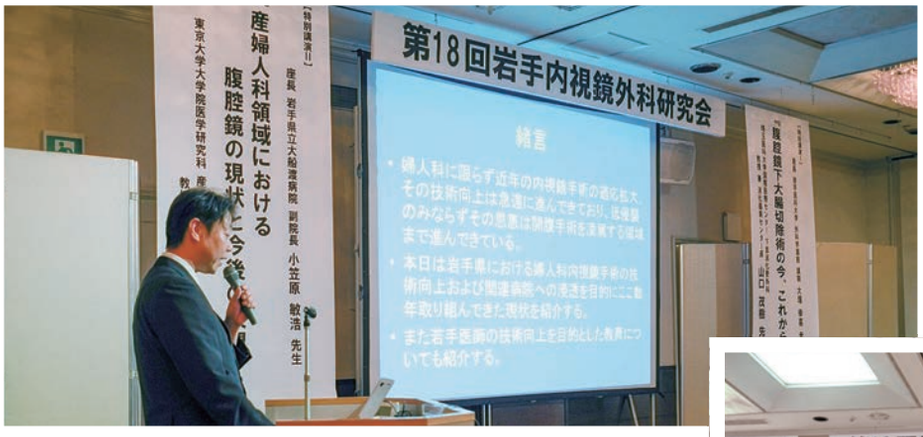
盛岡タイムス　2015年12月15日掲載

3
MARCH

第31回岩手ストーマ研究会（2015.3.24）

岩手内視鏡外科研究会（2015.5.5）

5
MAY



7
JULY

北上川ゴムボート川下り（2015.7.22）

8
AUGUST

納涼会（2015.8.11）

齊藤名誉教授の喜寿をお祝いする会（2015.9.2）

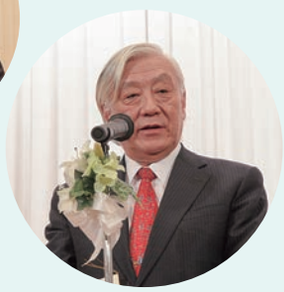
9
SEPTEMBER

第42回日本臓器保存生物医学会（2015.11.13～14）

11
NOVEMBER

11
NOVEMBER

佐々木章教授就任祝賀会（2015.11.1）

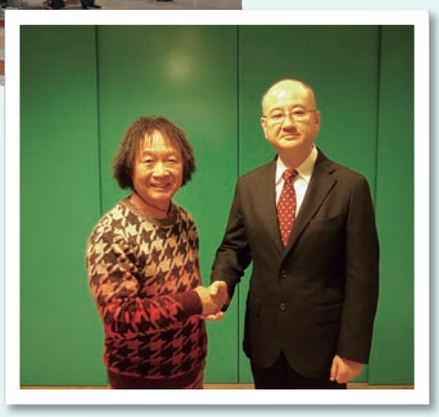


12
DECEMBER

巌刀会忘年会（2015.12.5）

12
DECEMBER

第13回市民公開講座（2015.12.1）



2016
1
JANUARY

医局新年会（2016.1.6）

2016
3
MARCH

医局歓送迎会（2016.3.7）

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

同門会の諸先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。恒例により当科の近況をご報告いたします。

診療体制では、坂本　隆（院長）、佐藤直夫（副院長兼消化器外科長）、川﨑雄一郎（外科長）に加え、医局からの長期診療応援医師として平成26年４月から佐々木秀策先生（同年11月から吉田宗平先生に交代）、平成27年４月から藤井仁志先生を派遣していただきました。３名の先生には、できるだけ多くの症例で術者を担当していただきましたが、症例を重ねるごとに、外科医として成長していく姿が見られました。平成28年４月からは前かづの厚生病院副院長の阿部　薫先生（現副院長心得）をお迎えしてのスタートとなりました。平均年齢がかなり上昇したため診療に与える影響が懸念されますが、何とかがんばって行きたいと思っています。

さて、現在の診療体制は上記の４名が常勤の外科医となっていますが、常勤スタッフに加え、圏域から県立軽米病院の葛西敏史先生（火曜日午後）に定期の手術応援として来ていただいております。また、教室からは、塩井義裕先生（月曜日外来）、川岸涼子先生（木曜日乳腺外来）、新田浩幸先生（金曜日外来）、に定期的診療応援をいただいています。さらに、腹腔鏡下手術、肝胆膵手術などでは、それぞれご専門とされる教室の先生にご指導をいただいております。

一方当科からは、一戸病院金曜日外来（坂本）、九戸地域診療センター月曜日外来（佐藤）、軽米病院第２・第４木曜日外来（坂本）の診療応援をしています。

広い医療圏（二戸市、一戸町、軽米町、九戸村、葛巻町、青森県三戸町、田子町など）で求められる外科治療の需要に対して、集約化と分散化の二本立てで、圏域が一体となった診療を行っています。

病院全体としてのトピックでは、平成27年12月から施行した病床再編が挙げられます。それまで外科・整形外科が主として使用していた病棟を休止し、それぞれ別の病棟へ再編しました。外科スタッフの多大な協力により、現在のところ再編後も特に問題なく経過していますが、今後も解決していかなければならない点が多々あると考えています。人口減少・高齢化が進む当地域で、引き続き適切な外科治療を提供していけるよう、さらに努力する所存です。今後も一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

軽米病院忘年会の一コマ

巌刀会の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平成26年には佐々木新教授体制となり、ますます外科スタッフが一丸となってやっていく思いが感じられますので、サテライトを任されている者として、皆様の「生活関連病院」の役割を全うしたいと考えております。

さて、恒例のことですが、当院の一年間を振り返ってみます。診療体制では葛西が軽米20年目に入りますが、外来は秋山先生（月）、塩井先生（水）、松井先生（水～木）がいらっしゃり、土日の日当直応援には木村先生、千葉先生、箱崎先生、上嶋先生、西成先生、八重樫先生らがいらしてくれました。本当に助かっておりますし、感謝の念に耐えません。有難うございました。

当院の変化としては、内科医が一人開業したため、常勤医師が減少（内科２、外科１、小児科１）しています。医師配置はベッド数に対して16：１が基準ですので、一般病棟100床に対して必要医師数は6.25人なのです。皆様の応援のおかげでベッド数を維持できております（常勤医師は医師数１とカウントし、毎週来てくれている医師を医師数0.2と加算します。ここで出張元の方を-0.2と減算しないところが不思議な制度ですが）。

また、軽米町としても15,000人ほどいた人口も9,000人台まで減少しており、前知事の増田さんが言うように、「地域の消滅」が現実のものとなるかもしれません。この辺は、行政の課題でもあります

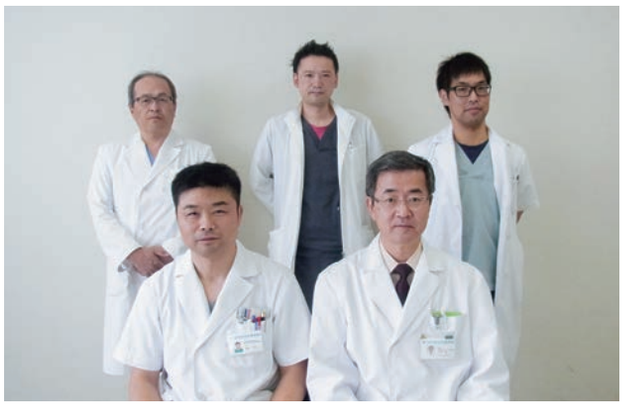
平成28年度の４月からは応援メンバーも新しくなり、遠藤先生、川岸先生、有末先生、二階先生らに参加いただき、フレッシュな感じとなっています。

県立病院医師と達増知事との懇親会

今後とも先生方のお力になれるよう頑張って参る所存ですので、引き続きより一層のご指導・ご支援をお願いいたします。

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院



平成28年度の外科スタッフは吉田徹院長、遠野千尋副院長、高橋正統外科長、藤井仁外科医長、心臓血管外科／救急医学講座／皆川幸洋副救急センター長の５名に加え、今年度は地域枠卒業の大崎洸医師が１年間の外科研修を行っています。また、２年次研修医、１年次研修医もローテーションをしてくれていますので、病棟、外来とも若いスタッフで活気があります。外科医局からは小児外科を水野大准教授、小林めぐみ先生に毎月第１金曜日の診療と、小児外科手術を応援して頂いています。また、定期の診療応援では昨年までの柏葉匡寛先生による乳腺外来がなくなり、患者さんは当然ですが、我々久慈病院外科スタッフも非常に複雑な乳癌診療のよりどころを無くし、落胆が大きいです。今後もよりいっそう緊張感を持って乳癌治療に取り組みたいと思います。また、佐々木章教授、肥田圭介准教授、大塚幸喜医局長、新田浩幸特任准教授にも手術応援を頂き、最先端の手術術式を学ぶことができました。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2015年の手術件数は400件でした（2014：397件）。全身麻酔手術件数は320件（80％）、鏡視下手術は102件（25.5％）緊急手術は60件（15％）でした。近年は、手術総件数は横ばいで増えることはありません。これは久慈地区の若年者の人口減少傾向と関連が考えられます。久慈市ホームページによると、久慈地区の人口構成推移では当然、年少、生産年齢人口は減少の一途ですが、老年人口は2025年まで確実に増え続ける試算です。相対的に高齢者の割合は増え続けています。さらに老年人口が2014年より減少するのはなんと2045年です。あと30年は今より老年人口が多いのです。それを現すように、主に患者が高齢者である2015年の病院全体の救急車搬入台数は1650件（2014：1600件）、また、外科の新入院患者数は626人（2014：669人）で例年通りでした。高齢者の医療のニーズはこれからもあと30年は変わらない予測です。今後も気を緩めることなく、地域外科医療にスタッフ一丸で取り組みたいと考えます。

（文責：遠野千尋）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

この一年スタッフの数の変動がありました。畠山先生はほぼ緩和科に専任しております。研修医は居たりいなかったりで例年と変わりないため、通常５名で診療しております。４月から８月までは杉村が抜け４名で、９月から杉村が戻ってき、更に東北労災病院から澤田先生が半年間診療研修に来ていただき６名となっていました。この６人体制、一人増えるだけでも大きく負担減となることを実感し、可能な限りの増員を再度求めていきたいと思います。

手術件数は、スタッフが少ない時期があったにもかかわらず、昨年より若干増え、手術場を使用した全手術数691件、全麻件数648件、うち胸腹腔鏡下手術317件、急患手術142件でした。内訳として、癌の手術の伸びはあまりなく例年通り、胆摘が約100件、ヘルニア手術が約130件と多いのが特徴かと考えます。

フットワーク軽く、他科、パラメディカル、事務とのコミュニケーションよく、笑顔をモットーに患者さん、ご家族にに寄り添って毎日の診療に当たっております。

Uchimaru Hospital

内丸病院

内丸病院の状況報告を致します。

４月より、菊地大輝先生が常勤となり、外科は常勤２名体制となりました。また、当直や手術時の医局からの応援と、毎週火曜日（肛門外来・手術）の野田芳範先生、当直の細井義行先生のおかげで、外来、病棟、手術をこなしております。

菊地先生の紹介ですが、福島県立医科大学を平成18年に卒業し、滝沢出身のため、盛岡にもどられました。専門は、乳腺外科（乳腺認定医）と肛門科であり、専門外来を新設しました。

①外来は、甲状腺、ヘルニア、乳腺（新設）、肛門と専門外来のみで専門特化しているのが特徴です。

②入院では、上記疾患の手術入院の他に、化学療法の入院治療、緩和目的の入院、術後リハビリ目的の入院のご紹介（転院）を頂いております。

③手術では、平成24年の初年度より、毎年約200件を維持しており、甲状腺・副甲状腺手術と、鼠径ヘルニア・腹壁瘢痕ヘルニアで、当科手術の９割を占めております。その他には、虫垂炎手術、乳腺疾患手術などです。手術の特徴としては、鼠径ヘルニア手術では、TEP（腹膜外到達法）手術を行っており、昨年より単孔TEP手術を導入しております。（ちなみにLPECや虫垂炎手術も単孔）内視鏡手術率は、鼠径・腹壁ヘルニアの18％（17/97件）、虫垂炎の83％（10/12件）で徐々に上昇するように工面しておりますが、全身麻酔の困難な合併症の多い高齢の患者様が多いためと、全身麻酔枠の限界もあり、苦労しているところです。その他には、PEGやPTEG造設術、CVポート造設術をご紹介頂き、施行している点が特徴であります。

④少ないスタッフとコンパクト（？）な中小病院ではありますが、日本外科学会関連施設（専門医２名）、日本消化器外科学会関連施設（専門医２名（うち指導医１名））、日本甲状腺学会認定施設（専門医１名）、日本甲状腺外科・内分泌外科学会認定施設（専門医１名）、日本緩和ケア学会認定研修外研修、学会認定・関連施設に積極的に申請し、専門医の育成や更新、若手の先生が出張手術にきて頂いた症例も登録できる体制に整備しております。また、今年は、JSPENと日本乳癌学会の認定施設の申請準備を進めているところです（目標！）。

新しいニュースとしては、内丸病院も開院35周年が経過

し、さすがに老朽化が目立ってきましたので、今後数年以内の近い将来に、病院新築に向けて動き出したところです。地域の医療機関の先生方に、患者様の検査や入院で利用して頂けるような病院を目指し、スタッフ一同取り組んでおります。

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院

臨床外科（医学書院）よりなぜか依頼があり、2016年４月号の「病院めぐり」という病院紹介のコーナーに当科が掲載されました。ご覧頂ければ幸いです。当科は、常勤医師１名と岩手医大外科医局よりの派遣医師２名の計３名で診療を行っております。平成27年度は、梅邑晃先生と中村聖華先生に勤務頂きました。当院の恒例行事となりました第８回キッズセミナーも、開催いたしました。今年度の第９回キッズセミナーは、７月３日に開催予定ですので、御子息様の参加希望あれば、是非御連絡下さい。昨年度は、近年稀に見る非常にアカデミックな年となりました。須藤が、日本外科感染症外科学会の外科周術期感染管理認定医を、梅邑医師が、日本肝臓学会の肝臓専門医を、中村医師が、日本外科学会の外科専門医とがん治療認定医を取得いたしました。学会活動では、手術症例の増加に伴い当科単独で臨床研究を開始し、論文発表出来たことが最大の喜びです。須藤が、日本内視鏡外科学会雑誌に臨床研究を原著として３編、日本消化器外科学会雑誌に症例報告を１編投稿いたしました。梅邑医師は、原著の臨床研究を和文で日本外科感染症学会に１編、症例報告の英文を２編、和文を日本内視鏡外科学会雑誌などに２編投稿いたしました。中村医師は、岩手医学雑誌に症例報告を３編投稿いたしました。また、平成26年度に勤務頂いた遠藤史隆医師は、日本内視鏡外科学会誌に症例報告を１編投稿いたしました。英文の症例報告２編、和文の原著４編、症例報告７編の計13編となり、これは、平成24年度の５編を超えました。当科の規模で年間10編以上の論文投稿は誇れる数字ではないかと自負しております。当科は、常勤医師３名で、全身麻酔手術件数が年間500超で腹腔鏡手術率65％と多忙ではありますが、学会活動のうち論文作成は、学会発表と異なり病院不在にすることなく出来る極めて有効な方法であると思われます。今年度も臨床研究を３本走らせており、今後も当院に勤務頂く医師と共々当院の症例で老若問わず活発な学会活動を継続していきたいと思います。また、当院で手術を数多く経験頂き、多くの先生方に専門医試験を受験して頂ければと思っております。

当院は、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。最後になりますが、お陰様で盛岡市立病院の収益が昨年度黒字化いたしました。１年で赤字に戻らないように頑張っていきますので、今後もご指導よろしくお願いいたします。

（文責：須藤隆之）

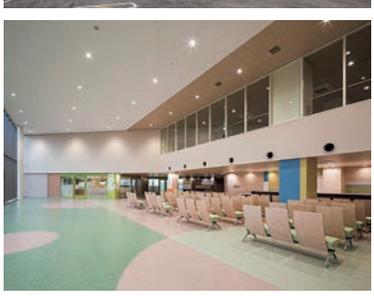
Morioka Yuuai Hospital

盛岡友愛病院

盛岡友愛病院外科は現在、長澤　茂（院長）、多田 隆士、西成 尚人、中島 隆之、藤井 祐次、佐藤　央、松谷 英樹、髙橋 正浩、志賀 光二郎の９名で、それぞれ消化器・乳腺・血管・呼吸器外科などを分担診療しています。

老朽化した一部の病棟と事務棟の建て替えは平成25年から行っていますが、昨年５月に一段落し、「新西棟」として稼働することができました。北西方向が広く開けた立地は、盛岡市内はもちろん、岩手山や南昌山、姫神山などを見渡すことができます。

地下１階（機械室中心）、地上６階建てとなった新西棟ですが、１階にはコンビニ・レストランを併設したロビーと健診センターを備え、２階には手狭であった手術室を新築・移転し、３階、４階には外科系病棟を移転、５階には新規に緩和ケア病棟を開設しました。６階には大ホールがあり（３室に区切って会議などに利用可能）、３階から６階までの眺望は素晴らしく、患者さんには勿論のこと、職員にも好評のようです。今後さらに外来受付や薬局、会計、待合ロビーの拡張など、解体・移転工事が続くため、今しばらく入院・外来患者さん、ご家族、見舞い客の皆様にもご迷惑をお掛けしますが、やっとここまで来たという感じです。



加えて現在、リハビリ機能を拡充するとともに「回復期リハビリテーション病棟」の増床、「地方包括ケア病棟」の新設を行う予定で、今後さらなる病棟再編成が予定されています。看護師不足と当院医局の高齢化も相変わらずで、まだまだテンテコ舞いは続きそうです。

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

2016年度は４人の医師のうち、３人が交替してスタートしております。

小原先生と佐々木先生が千厩病院へ、中屋先生が北上済生会病院へ転勤し、代わりに、佐藤が千厩から、石黒が自治医大（古河日赤）から、川島が県立中部病院の初期研修を終えて着任しています。引き継ぎの大変な時期を今津先生が一人残って乗り切ってくれて、なんとか新たな年度の船出をしたと言うところです。

隣、大槌病院からは、坂下伸夫院長先生に週一回の手術応援を頂いております。大槌はこの５月に新病院が開院するということで、連携を益々深めて釜石圏域の外科診療の充実を図って行きたいと考えております。

また、甲状腺外来を担当していただいている小笠原聡先生にも引き続きお世話になります。

そのほか、大学の外科学講座からは当直、休日当番での若い先生方の応援、そして遠隔手術指導をはじめとして、

各分野のスペシャリストの先生方からの指導もことある毎に頂いており、今後もこれらの援助なくては当院の外科診療は立ちゆかないと考えております。

スタッフが入れ替わって、成績が落ちたといわれないように、皆で協力して今年度も外科の診療を頑張っていきたいと思います。

今後とも、釜石病院外科をよろしくお願い申し上げます。　（文責：佐藤　一）

うっかりして
全員で撮影の機会を
逃してしまいました。
（川島ゴメン、、、）
前列左：今津、右：佐藤
後列左：研修医、千葉貴之
右：石黒
右別枠：川島　です。

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

いつも大変お世話になっております。岩手県立宮古病院外科の平成27年１年間を振り返りつつ、平成28年５月１日現在の状況報告を致します。

平成27年の宮古病院外科の主な出来事というと、院長の交代と坂下先生の転勤。そして麻酔科の撤退でした。院長は新たに県立中央病院から村上晶彦先生が赴任されました。何事にも積極的で行動力のある熱い先生です。よろしくお願いします。坂下先生は大槌病院の院長に栄転されました。今年度に新病院が開院するとのことで、いろいろ大変そうです。ご苦労様です。問題は麻酔科です。その後麻酔科応援はほぼ毎日県立中央病院から来ていただいておりますが、制約が多く、夜間休日の急患は外科が麻酔をするしかなくなり、平日日中でも他科の麻酔が立て込んでいると自家麻酔になることが多くなりました。そんな中でも平成27年は年間394件（全身麻酔336件）、緊急手術も88件あり件数は減少しておらず、今年八戸日赤に移った佐々木秀策先生には大活躍をしてもらいました。ありがとうございました。

平成28年のスタッフは、前年からひき続きの菅原俊道（50）臨床研修科長、石川徹（49）第１外科長、鴻巣正史（42）第２外科長の３名と、４月に久慈病院から転勤した藤社勉（46）救急医療科長が新たに赴任され、更に岩手医大呼吸器外科に入局予定の３年目後期研修医菅野紘暢先生が比較的長く外科で研修してくれる予定となりました。しかし、研修医を除くと平均年齢47歳となり超高齢化外科チームになりました。贅沢は言えませんが。

診療応援は、昨年に引き続き、火曜日午前中は野田芳範先生、火曜午後は北上済生会病院から細井信之先生に来ていただき手術応援、技術指導と活躍してもらっています。火曜夜から水曜日は大学から天野総先生、また更に小松英明先生には月１回の乳腺外来、手術を応援していただき、水野大先生には月１回の小児外科外来と手術をお願いしております。その他にも不定期ですが同門の先生方には様々な場面で非常にお世話になっております。いつも本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

先日、熊本地震が発生し、報道を見るにつけ５年前の東日本大震災を思い出して身につまされる思いをしております。当時は本当に盛岡からの援助に感謝感激したものでした。今後とも助け合いの精神を忘れないようにして意見を出し合い、粛々と日々の診療を続けていかねばと改めて思っております。緩和医療や外来化学療法など日常診療は複雑化の一途をたどっており、今後更に専門分化が進むものと予想されます。新専門医制度も迷走？しており、先行きが不透明です。つきましては、今後とも医局の先生方、各関連病院の先生方からのご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

岩手県立大船渡病院

岩手県立大船渡病院のある気仙地域は５年前の東日本大震災津波で2000人以上の犠牲者を出し、その後の人口流出などもあり、人口は約63,000人です。そのために震災前と比べて患者数も徐々に減少しています。現在の大船渡市はJR大船渡駅周囲にホテルが数棟建ち始め、来年春には一部の商店街完成する予定です。しかし、陸前高田市は現在もかさ上げ工事が続いている状態で、市街地中心部の建築にはかなりの時間を要すると思われます。

当院の外科は、私以外に東北大学第２外科の中野副院長、星田外科長（消外科専門医・指導医）、鈴木消化器外科長、三田村救急医療科長、山田臨床検査科長と同門の村上緩和医療科長、そして増子後期研修医を含めた７人体制で診療を行っています。

当院の手術件数は関連施設統計に含まれていないので、簡単に紹介いたします。平成27年１月～12月の外科手術件数486件（内緊急手術108件）で、全身麻酔は400件（全体973件）と大震災・津波以降は徐々に減少傾向にあります。悪性腫瘍手術は表に示すように消化器がんを中心に125件で、同様に減少傾向にあります。内容を見ると、乳がんでは温存術症例が少ないですがその殆どを紹介しているためです。一方、消化器がんでは鏡視下手術症例が６例と少なく、今後の大きな課題となっています。

外来では特殊外来として、月２回の乳腺外来、２週１回の血管外来そして週２回の緩和ケア外来があり、その他に認定看護師によるストマ外来、リンパ浮腫外来、乳がん相談も行っています。また、外来化学療法は１年間に延べ958人（全体1672人）行っており、年々増加傾向にあります。

今年度、私が赴任して初めて当院の２年次研修医石岡秀基医師が入局しました。石岡医師は平泉町出身で自治医大卒です。皆さん宜しくお願いいたします。

（文責：伊藤）

全手術件数		
	全身麻酔	400
	腰椎・硬膜外麻酔	3
	局所麻酔・その他	83
	合計	486（緊急108）
内悪性腫瘍手術		
	甲状腺	1
	乳腺	23(全19、温4、他0)
	食道	3(内視鏡1)
	胃	26(内視鏡3) (全7幽15噴3他1)
	膵臓	7(PD)
	胆嚢	0
	肝臓	2
	結腸	42(内視鏡2)
	直腸	21(内視鏡0)
	その他	0
	合計	125

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

・スタッフ：細井信之　中屋　勉　小松英明

・診療体制：月曜日　外来（細井）午後手術（全麻）
手術応援（岩谷医師＆小松医師）
火曜日　外来（斎藤元院長・中屋）
午後手術（局麻）
水曜日　外来（細井）小児外来（水野教授）
午後手術（全麻）手術応援（飯島医師）
木曜日　外来（中屋）乳腺外来（小松医師）
午後手術（局麻）
金曜日　外来（細井or中屋）隔週
午後手術（全麻）
※小児外来は月１回　手術応援 飯島医師，小松医師は不定期

・平成27年度の手術症例報告（１月～12月）
全手術症例数　127例
全身麻酔手術症例数　76例（腹腔鏡下手術　47例）

［近況報告］

・平成27年度４月より細井、小松による外科２人体制とな

りました。
術中迅速病理診断を再開し、11例に乳がんセンチネルリンパ節生検を施行致しました。
・平成28年度４月より中屋医師赴任。小松医師 医大乳腺グループ長に就任。
金曜日隔週の当直応援医師が片桐医師から遠藤医師となりました。
・当科は鼠径ヘルニア症例にTAPPを第１選択とし施行しています。
（腹腔鏡下手術の殆どがヘルニア症例）

・当院は消化器科常勤医師不在ということもあり手術症例の偏向が顕著ですが
花巻温泉病院に最も近隣の関連施設であり手術・外来診療応援を積極的に行っています。

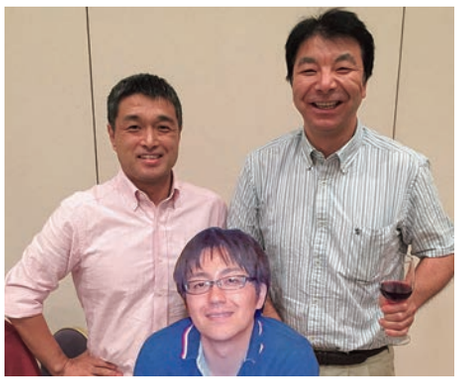
Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

2015年４月に院長の吉田徹先生（S59年卒）が久慈病院に異動されましのので，下沖収（S63卒）が久慈から赴任することになりました．佐藤一（Ｈ２卒）と齋藤匠（H22年卒）の常勤３名体制に変化はありません．大学からの定期応援は眞壁健二先生の週１回の当直外来応援，木村祐輔教授には月１回の外来をご担当していただきました．県立病院の現役・OB院長先生方はじめ，多くの先生方に外科外来の他にも各科のお手伝いいただいております．この場をお借りしまして感謝を申し上げます．

千厩病院は，155床のベッドで地域の一般診療，二次救急，外来透析など旧東磐井地域の中核的医療施設としての役割を担っております．が，常勤医５名（外科３名＋消化器内科１名＋総合診療科１名）＋理事１名と極端な医師不足の状況です．外科医師の役割は通常の外科診療の他に，病院運営に関わる仕事（会議），整形外科や泌尿器科など外科系急患対応，リハビリ，透析医療など多岐にわたっております．医師不足地域における外科医には否応なく総合診療医としての素養が求められます．2016年度から外科も「総合診療外科」とし，できるだけ断らない病院を目指し，その屋台骨を担うことにしております．

2015年の手術件数は，全身麻酔115件，腰椎麻酔30件，局所麻酔30件とやや少なめでしたが，鏡視下手術は42件，急患手術は30件でした．当院の手術症例は一段と高齢化が進んでおり（全症例71.7歳，全麻症例73.5歳），手術適応，術式，術後管理，退院支援，術後補助療法，再発治療などの点で高齢者医療の難しさを感じさせられております．



現在，千厩病院は一関市旧東磐井の地域病院として病院機能分化を進めております．回復期リハビリ病棟45床が比較的順調に運用されておりますし，2016年度後半からは一般病棟の一部を地域包括ケア病床として運用を開始する予定です．2016年度から地域包括ケア病棟における手術は出来高算定となりますので，外科でもより積極的に地域包括ケア病床を利用できるようになります．地域の救急医療，一般医療を担いながらも求められる機能分化（回復期）にはしっかりと応えていく必要があると考えております．そして2016年度には，電子カルテが導入されます．情報共有と業務効率化，医療事故防止のためにも非常に期待しているところです．

当院は協力型研修病院ですが，2015年度は県立中央病院から５名，大船渡病院から３名，磐井病院から１名の他に国際医療研究センターから４名，岐阜大学病院から２名の計15名の研修医を受け入れました．絶対的医師不足，超高齢化，インフラ不足の当地における地域医療を実践体験してもらっております．病院には常に若い研修医たちの活気があふれ，頻繁に行われる歓送迎会は有意義な情報交換の場となっております．医局会は月２回行っておりますが，１回は抄読会を，もう１回は医療安全や経営に関わる勉強会を行っております．常に新しい知見の収集を怠らない姿勢と同時に，医師として必要な常識も是非学んでもらいたいと考えております．

今後も外科医局の先生方にはご指導・ご支援をいただきながら，益々の外科診療の充実を図って参りたいと考えております．宜しくお願いいたします．

Iwate Prefectual Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

当院は現在、川村秀司病院長と菅野の２人で外科業務を行っております。昨年は外来や当直業務、手術応援に多くの先生方のご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

平成27年度は総手術件数、全身麻酔件数とも前年とほぼ同程度の件数に留まりましたが、腹腔鏡手術に関しましては医局の諸先生方のご指導、ご協力をいただいたおかげで大幅に増加し全身麻酔手術の約７割強を施行するに至りました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

昨年はアニマルラボでの腹腔鏡手術トレーニングに参加させていただいたり、腹壁瘢痕ヘルニアや鼠径ヘルニア、尿膜管遺残症、大腸直腸病変に対して腹腔鏡手術の導入を行うなど、手術領域では変化の多い年でありました。手術件数が少ないため、一件一件を可能な限り慎重に丁寧に取り組ませていただいた甲斐もあり、この２年間は周術期合併症の発症は無く、無事に過ごすことができております。今年も引き続き大きな事故無く過ごせるよう精進してまいります。

一方で、診療領域においては訪問診療の拡充や在宅での看取りの施行、高齢者の嚥下障害に対しての嚥下機能検査や評価、嚥下リハビリテーションや栄養管理など地域における当院や当科の役割について考え、様々な取り組みをスタートさせ、多くの問題に突き当たり、悩み苦しんだ１年でもありました。しかし徐々にこれらも軌道に乗ってきており、今年度はさらに地域に根付いた医療を提供できるよう、またこれまで以上に幅広い患者層に適切な医療が提供できるよう努力してまいります。

今年度も医局の諸先生方のご協力をいただきながら、さらに手術件数の増加と安全確実な治療の提供を目指し頑張ってまいりますのでよろしくお願い致します。

（文責：菅野公徳）

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

当院は、国の特別史跡・函館五稜郭から直線距離で200m足らずの場所に位置し、函館市の繁華街・本町へも歩いて５－10分というとても素晴らしい位置に在しております。元々、空港が函館市内のごく近い位置に有り東京や大阪等へのアクセスが非常に良いのですが、更に新幹線開通で東北地方への行き来に便利になりました。当院の規模としては、病床数が500超から500未満に戦略的な縮小の予定ですが、医師数は100を超えます（研修医含む）。当院に研修に来る臨床研修医も昨年度９名、今年度は13名と増加しております。

当科の手術症例数ですが、2015年の全手術件数は1520件です（全身麻酔1272、脊椎麻酔31、局所麻酔217）。重複はあるのですが、内訳として、胃146例、大腸肛門289例、乳腺203例、肝胆膵62例、食道24例、胆嚢結石症・総胆管結石156例、ヘルニア201例、虫垂良性53例、となっております。

2016年度の診療体制ですが、高金副院長、小林診療部長、船渡科長、以下は米澤、大渕、菅野、松尾、武田、安藤の９名となります。また、医局員である柳田医師も研修医二年目として現在外科研修中です。臨床研修医は常時２名以上（今月は４名！）ローテーションにて配属となっていますので、大変貴重な戦力として助かっております。

高金副院長は、大学に負けないようにという志のもと、胃手術を一手に引き受けながら学術活動や医師主導型臨床試験に積極的に取りくみ、なおかつ余り口を出さないようにとあえて我々と距離を（ある程度）とって頂いているように思われます。函館五稜郭病院の癌治療ならびに外科手術は高金先生あってのものです。小林先生は救急科長としても活動を始められ、日中の救急車対応を一手に引き受けられております。手術にあまり入って頂ける機会が減り残念ですが、今でも食道手術などで素晴らしいテクニックを発揮されております。難しい症例などでいつでも頼りにしております。船渡医師は小川先生に代わり、とうとう科長になりました。自由人の印象が強いのですが、各種資格もあり潜在力の高い方ですので、中間管理職として力を大いに発揮して頂けるものと思います。米澤医師は……まだまだ独身隊長です……もしかして名誉会長の殿堂入り？乳腺担当が一人になり外来でヘロヘロになっておりますが、存外マンマの仕事も、夜の街も楽しんでおります。大渕医師は中嶋医師に代わりヘルニア番長としてTAPPなど道南のヘルニア診療を牽引してゆく意気込みです。研修医への腹腔鏡下胆嚢摘出術の指導はさすがのもので、とても辛抱強く非常に丁寧に教えており、教え方として参考になります。菅野医師は、全く怒ることもなく淡々と仕事をこなし、以前の在任時もスタッフに神と呼ばれていたようですが、現在も同様に大変な症例を沢山抱えながら淡々と弱音を吐くこともなく急患をこなしており、恐るべき力を見せつけています（これは大学も戻したいだろうなあ）。松尾医師は専門の大腸肛門疾患について我々に色々ご指導して頂けるものと大いに期待しております。武田医師、安藤医師は当院が二度目ですので安定した仕事ぶりを発揮出来るものと思います。特に安藤医師はこれから嫌と言うほど手術症例を任されるはずです。

ところで、昨年は３月に中嶋医師が退職し群馬へ帰郷。わりあい他人に厳しく（時に自分に甘く？）、飲み会隊長としても楽しませてくれたあの芸風が見られなくなってとても寂しくなりました……そして、中嶋医師の後任として昨年４月に佐藤慧医師が着任。若くガッツある佐藤医師に仕事面でもプライベート面でも大いに期待を寄せていたのですが、まさかの１年で交代！能代での吉報（ヨメ）を心待ちにしております。早川医師の退職後、函館五稜郭病院の乳腺外科を支えた川岸医師は今年４月に大学に戻られましたが、今後は専門医を取得し少しでも早く函館に戻られることを一同願っております（でも医局が手放さない？）。そして小川先生、大腸の難手術症例を扱いながら科長と当院医局長も兼ねて多忙な日々を送られていましたが、一方で多彩な趣味（ラジコン、狩猟、バイクetc.）を楽しんでおられたのが印象的でした。４月から鹿角の副院長とのことで、大変かとお察しいたしますが、鹿角外科ならびに病院を更に楽しい処に変えて頂けるのではと遠くからご期待しております。

臨床研修についてですが、最近では安藤先生を先駆けに、大槻、畑中、柳田と当院での初期研修を受けたor研修中です。今年は外科入局予定の研修医が岩手医科大学から来られなかったのが残念ですが、外科を志す方が居れば是非当院での研修を考えて頂ければと思います。当院外科は手術症例に関しては言わずもがなの多さです。助手として見ているだけでも相当な経験となりますので、手術に関してではありますが「優秀なものはますます優秀に、ボンクラでもそれなり以上にデキるように」なれる病院と思います。初期研修医に限らず、若い外科医の先生方は機会があれば是非当院で経験を積んで頂きたいと思います。その上でベテランとなったら北東北の小～中規模病院で働いて頂き、後輩の指導をしながら、地方病院の大変さ、そして手術治療以外の診療の奥深さと楽しさを感じて頂けたらとも思います。

最後に、手術症例が多いとは言え、医師不足・医局員不足の中で当院外科への医局員派遣を継続して頂いている、佐々木教授・大学医局に感謝を申し上げます。一同、学術活動を含め函館五稜郭病院外科の更なる発展を目指して行きます。今後とも更なるご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

2015年４月より当院は山本組合病院から能代厚生医療センターに改称されました。とは言っても名前以外は何も変わらず従来のままで、職員ですら相変わらず山組という名前で呼んでいます。ただ学会など対外的には、センターがついたから少し格好がついたかな、などと感じています。

診療は、大山健一、加藤久仁之の２人の固定スタッフに加え、2015年度は石橋正久が、2016年度から佐藤慧が加わり３人体制を維持しております。

2015年度の手術件数は全身麻酔手術が383件、腹腔鏡下手術が269件で、腹腔鏡下手術率は70.2%、腹部全身麻酔に限ると81.7%でした。緊急手術においても82.3%と積極的に腹腔鏡を用いております。腹腔鏡下手術件数、腹腔鏡下手術率ともに秋田県内の他施設を遥かに凌駕しております。このことはメディアも使ってアピールはしているのですが、地域住民にはなかなか浸透せず、術前ICの際に腹腔鏡の話をするとポカンとなる人が依然多いのが実態です。ただ以前はポカン率が体感８割以上であったのが、最近は半数以下に減ってきており、なかには話を聞いて当院に来たという患者もいるので、めげずにアピールを続けていきたいと思っております。

また、市内の中学生を対象とした外科手術体験セミナーであるブラックジャックセミナーを３年前から毎年開催しており好評を得ており、参加者からは医療従事者になりたいという思いが強くなったという声が多く聞かれます。人材不足で困窮している当院ですが、いつの日かこの中から医療関係者になって当院に戻ってきてくれることを期待しております。

当院は若い先生方に来たいと思ってもらえる病院を目指しております。そのために積極的に新しいことを取り込む「攻めの姿勢」を続けていきたいと思っております。

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

平成28年４月より当院外科スタッフは、玉沢佳之、藤沢健太郎、御供真吾、野田宏伸、佐々木秀策の５人体制で診療にあたっております。さらに毎週水曜日に大学から有末篤弘先生の外来診療、同じく水曜日に種市病院から荒谷宗充先生、木曜日に名川町開業の川守田究先生による手術応援いただいて頑張っております。尚、柏葉先生には月に一度の乳腺専門外来を長く務めて頂いておりましたが、３月で終了となり残念なところであります。乳癌治療は特に薬物治療が多様化する中、最新治療に遅れないよう研鑽が必要と考えております。

さて、昨年の教室年報では関連病院だよりがなく、皆さまへのご報告ができずにおりましたが、当院に30年の長きにわたりご勤務頂いた佐瀬正博先生は、H27年３月をもって定年退職され、同年４月から仙台のご実家に戻られ、近郊の老健施設長として赴任されております。時折、電話やメールでやりとりさせていただいておりますが、お元気で活躍中のご様子です。

佐瀬先生の退職に伴い、H27年４月から玉沢が副院長に、藤沢が内視鏡外科部長に昇任しております。診療以外にも医療安全対策、化学療法委員会、緩和医療チーム、NST、ICT、災害救護班、褥瘡対策等、院内での当科に対する必要度が高く、役割分担しながらこれらにもあたっております。

当科週間スケジュールとしては下記を行いより良い診療に勤めております。

月曜日朝　入院患者の経過サマリー報告
火曜日夕　内科との手術症例の紹介と手術の所見、経過のカンファランス
水曜日朝　死亡症例報告

水曜日夜　術前、術後手術症例検討？（@浜井）
金曜日朝　外来患者の診療経過、治療方針、術後症例の病理結果等の検討

平成27年の全手術件数（全麻手術件数）は490（429）例で若干の減少ではありますが、胃癌、乳癌、大腸癌では例年通りの手術件数を施行し得ました。残念ながら昨年も急患手術数が減少傾向であり、全体数の減少の原因となっています。

不名誉な事ながらH28年２月、外科病棟内でのインフルエンザ（A型）アウトブレイクを経験いたしました。９日の間に入院患者８名、病棟看護師６名が発症しました。

感染患者の個室隔離ならびにインフルエンザ治療、感染スタッフの休職
同室患者、濃厚接触者の抗ウィルス剤予防投与、移動制限
入院患者制限、手術延期、術前患者の一時帰宅

等の措置を施行しました。幸い入院患者様は大事に至らず、外科医師もタミフル予防内服で乗り越え、なんとか13日間で終息にいたりました。来年の流行時の対策を検討中ですが、新規の措置として良い策は見つかっていません。

以上をもって当院の近況報告といたしますが、今年度も伝統のチームワークを守り頑張って行く所存です。

Kazuno Kosei Hospital

かづの厚生病院

かづの厚生病院外科は、2016年４月よりスタッフが小川、片桐に交代しました。２名同時の交代に、いささか不安もありましたが、この１ヶ月間、充実した毎日を送っております。大学で移植に携わっていた片桐先生の、勇往邁進の働きが心強いです。毎週金曜には花巻温泉病院の飯島先生に、月曜には大学の瀬川先生に診療応援を戴いており、感謝申し上げます。

秋田県には岩手医科大学外科の関連施設として、能代厚生医療センターと、ここ、かづの厚生病院があります。標榜科は16科、病床数262床（現在212床で稼働）で、平成22年５月に移転となった瀟洒な病棟は６年を経過しても綺麗で、地域の人たちに大事にされていることが伺われます。

地理的には東北自動車道のインターチェンジが近く、盛岡までは93キロ、弘前市までは51キロの距離です。秋田市方面へはむしろ利便が悪く、南部藩に属した歴史もあり、救急搬送、Dr.ヘリはもっぱら盛岡に向かいます。（小鹿先生、お世話になっております。）近い将来、自家用車の自動運転が実現すると、東北新幹線への接続が悪いことも克服できるでしょう。（囲碁の世界では今年３月、人工知能が人間に勝利しました。10年は無理と言われていたのに。）

ただ気候的には、どうやら医局関連施設の中では極寒かも知れません。しかし、小川、片桐ともに北海道出身の寒冷地仕様です。耐寒性能に問題はないでしょう（たぶん…）。

昨年度の手術件数は全麻107件、その他83件です。当然、外来、健診、抗がん剤治療、緩和治療、療養治療が加わりますが、今年度は多くの地域企業の産業医業務をひろく担う事に致しました。医師一人で領域広く疾患を診なければならず、幅広い知識のアップデートが欠かせません。まさに地域医療の実践で、外科医としてのみならず、医師として自分のやりたかったことの多くが、この地にあるような気がしております。

この４月からは、遅まきながらDPCの導入がありました。診療報酬改定の基準変更とともに病院経営にも変革を求められていますが、優秀な事務方とタッグを組んで、更に外科が貢献できるのではないかと思っております。

人口減は、地方の抱える共通した由々しき問題です。産科、小児科もある当病院は人口減少の歯止めの役割を担う、地域の重要なインフラとして認識しなければなりません。やるべき事は、沢山ありそうです。丁寧な診療を通して、阿部薫先生から継承した住民の信頼を、更に広めることが出来れば、（手術）症例は益々増えるものと確信しております。佐々木章教授はじめ大学の諸先生のご指導ご鞭撻を、今後とも宜しくお願い申し上げます。

病院の近くには、花輪スキー場、ジャンプ台（！）を併設した東北随一のスポーツ複合施設であるアルパスがあります（写真）。後輩の指導にうずうずしている片桐先生と共に、医局からのお手伝いもお待ちしております。最後に、先日のTV番組で鹿角ホルモン鍋店が全国ローカル食堂第二位となっていたことを報告しておきます。

外科紹介医療機関

2015年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
青森県立中央病院	藤野安弘	030-8553	青森県	青森市	東造道2-1-1
青森労災病院	玉澤直樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ケ丘1番地
赤坂医院	赤坂俊幸	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	湯本29地割66-4
秋田赤十字病院	小棚木均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1
秋田組合総合病院（厚生連）	阿部栄二	011-0911	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1
あさくらクリニック	朝倉慎一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安代診療所	和田進	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町144番地1
安部医院	安部彦満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ内科消化器科クリニック	阿部礼司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
あべ菜園内科クリニック	阿部弘一	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園2-5-29
あべ整形外科医院	阿部克久	020-0611	岩手県	滝沢市	巣子1156-22
飯島医院	飯島仁	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277
石井内科消化器科医院	石井基弘	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘23-26
石田温泉病院(正恵会)	石田正実	039-2221	青森県	上北郡おいらせ町	上前田21-1
池田外科・消化器内科医院	池田健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
一関病院	佐藤隆次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
猪苗代病院	猪苗代盛貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
岩手医大花巻温泉病院	一戸貞文	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県立中央病院	望月泉	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立磐井病院	加藤博孝	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立胆沢病院	勝又宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立釜石病院	川上幹夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立久慈病院	吉田徹	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割１番
岩手県立宮古病院	村上晶彦	027-0096	岩手県	宮古市	崎鍬ケ崎1-11-26
岩手県立大船渡病院	伊藤達朗	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立遠野病院	郷右近祐司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立一戸病院	小井田潤一	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1
岩手県立二戸病院	坂本隆	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立千厩病院	下沖収	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立大槌病院	岩田千尋	028-1131	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌第13地割字八幡前129-11
岩手県立中部病院	遠藤秀彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立沼宮内地域診療センター	川村実	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
いわてリハビリテーションセンター	大井清文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田医院	植田俊郎	028-1112	岩手県	上閉伊郡大槌町	小槌23-23-1
植田内科消化器科医院	植田修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
内丸病院	冨澤勇貴	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
あ	えいづか内科胃腸科クリニック	永塚　健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-1-7
	奥州病院	佐藤芳邦	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
	大通胃腸科内科	鈴木恒男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-3-4
	おおうち消化器科・内科クリニック	大内　健	027-0077	岩手県	宮古市	舘合町1-8
	岡田消化器科内科医院	岡田健男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
	おばら内科・消化器科クリニック	小原啓彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
か	開運橋消化器内科クリニック	遠藤昌樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通り3-9-3
	かさい睡眠呼吸器クリニック	笠井良彦	024-0026	岩手県	北上市	堤ケ丘1-9-32
	かづの厚生病院	吉田雄樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
	かねこ内科ディクリニック	金子能人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-1-63
	釜石ファミリークリニック	関　薫	026-0025	岩手県	釜石市	大渡町3丁目15番26号
	金沢内科医院	金沢英夫	027-0023	岩手県	宮古市	磯鶏沖15-20
	北上済生会病院	佐藤智彦	024-0035	岩手県	北上市	花園町1-6-8
	くどう医院	工藤卓次	020-0127	岩手県	盛岡市	前九年3-16-15
	川久保病院	田村　茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
	栗原クリニック	栗原英夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
	黒川産婦人科医院	黒川賀重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
	孝仁病院	臼木　豊	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
	孝仁病院PET画像診断センター	村田雄二	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
	肥田胃腸科内科医院	肥田秀彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
	国保西根病院	瀧山郁雄	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
	国保種市病院	磯崎一太	028-7914	岩手県	九戸郡洋野町	種市23-27-2
	国立病院機構盛岡病院	菊池喜博	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
	小坂内科消化器科クリニック	小坂陽一	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
	湖東総合病院（厚生連）	中鉢明彦	018-1605	秋田県	南秋田郡八郎潟町	川崎字貝保37
	後藤泌尿器科皮膚科医院	後藤康文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
さ	済生会岩泉病院	柴野良博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
	ささきクリニック	佐々木盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
	さとう胃腸科内科	佐藤　治	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野1-11-25
	さとう内科クリニック	佐藤彰宏	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4-28
	さとう消化器科内科クリニック	佐藤慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
	さとう皮膚科クリニック	佐藤俊樹	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3丁目11-33
	佐藤内科クリニック	佐藤公也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
	佐藤皮膚科医院	佐藤雅子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
	佐藤雅夫クリニック	佐藤雅夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
	三愛病院	山内文俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15

外科紹介医療機関

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
さ	小豆島胃腸科内科クリニック	小豆島　正　和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
	白沢整形外科医院	白　澤　榮　嗣	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘3-40-28
	雫石大森クリニック	大　森　浩　明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
	市立田沢湖病院	佐々木　英　人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
	しんたろうクリニック	菊　池　信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
	菅整形外科・皮膚科クリニック	菅　　栄　一	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字川原38-1
	鈴木こう門科クリニック	鈴　木　俊　輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
	鈴木内科医院	鈴　木　知　己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
	せいてつ記念病院	鈴　木　啓　之	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
	総合花巻病院	後　藤　勝　也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
	総合水沢病院	半　井　　潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
た	高橋内科胃腸科クリニック	高　橋　　真	020-0611	岩手県	滝沢市	巣子1186-14
	滝沢中央病院	大川原　真　澄	020-0664	岩手県	滝沢市	鵜飼笹森42-2
	たぐち脳神経外科クリニック	田　口　壮　一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
	たにむらクリニック	谷　村　清　明	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
	町立西和賀さわうち病院	北　村　道　彦	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
	塚谷医院	塚　谷　栄　紀	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	江刈内10-45-1
	遠山病院	千　葉　　知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
	栃内内科医院	栃　内　秀　貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町10-35
	栃内病院	白　石　秀　夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
	栃内第二病院	栃　内　秀　彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1
	十和田市立中央病院	松　野　正　紀	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
な	内科　板倉医院	板　倉　康太郎	023-0833	岩手県	奥州市	水沢区上姉体6丁目1-8
	内科クリニックすずき	鈴　木　康　之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
	中津川病院	松　嶋　　大	020-0003	岩手県	盛岡市	下米内2-4-12
	中村内科医院	中　村　義　明	020-0886	岩手県	盛岡市	若園町2-5
	成田内科胃腸科医院	成　田　知　史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
	ナンブクリニック	陰　山　俊　之	039-0105	青森県	三戸郡南部町	大字沖田面字千刈47-1
	西大通り耳鼻咽喉科医院	鈴　木　利　久	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り1-30-9
	西松園内科医院	齊　藤　恵　子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
	二宮内科クリニック	二　宮　一　見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
	二戸クリニック	青　木　　光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
	乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石　田　茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
	野呂外科泌尿器科医院	野　呂　一　夫	023-0052	岩手県	奥州市	水沢区搦手丁24-6
は	八戸赤十字病院	瀬　尾　喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
	八戸市立市民病院	三　浦　一　章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
は	花巻市石鳥谷医療センター	似内郊雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
	ひろし外科肛門科	吉田博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
	平舘クリニック	土谷正彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平舘第11地割-10-10
	藤島内科医院	藤島敏智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
	ふじまる内科医院	藤丸潔	026-0301	岩手県	釜石市	鵜住居町第5地割29-10
	藤巻胃腸科内科クリニック	藤巻英二	025-0016	岩手県	花巻市	高木15-16-1
	ふるだて加藤肛門科・外科クリニック	加藤典博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
	ブレスト齊藤外科クリニック	齊藤純一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17－6
	本田胃腸科内科外科	本田健一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
	本荘第一病院	鈴木克彦	015-8567	秋田県	由利本荘市	出戸町字岩渕下110
ま	松園第一病院	河嶋寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1
	松園第二病院	石川洋子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
	松園中央クリニック	阿部佳子	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-37-10
	三沢市立三沢病院	坂田優	033-0022	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
	三島内科医院	佐藤倫郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34
	三田記念病院	矢島英雄	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
	緑が丘消化器内科医院	鈴木昇	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘3-2-34
	南東北がん陽子線治療センター	菊池泰裕	963-8052	福島県	郡山市	八山田７丁目172
	未来の風せいわ病院	田嶋宣行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
	もりおか胃腸科内科クリニック	佐藤邦夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
	盛岡市立病院	加藤章信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1
	盛岡赤十字病院	松田壯正	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
	盛岡つなぎ温泉病院	小西一樹	020-0055	岩手県	盛岡市	繋字尾入野64-9
	盛岡友愛病院	長澤茂	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
	森整形外科	森茂雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
	守口医院	守口尚	028-0521	岩手県	遠野市	材木町2番25号
や	八角病院	八角有紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
	やまだ胃腸内科クリニック	山田宏之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
	ゆとりが丘クリニック	高橋邦尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541
	吉田消化器科内科	吉田俊己	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16
	吉田内科呼吸器科医院	吉田雅美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第21地割79-3
ら	六角牛病院	林重仁	028-0502	岩手県	遠野市	青笹町中沢5-5-1
わ	わたクリニック	渡辺淳子	125-0054	東京都	葛飾区	柴又1-2-1　ＡＲＢ１Ｆ
	わたなべおしりのクリニック	渡邊正敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3
	渡辺内科医院	渡辺立夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰下丸森122-3

1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Umemura A, Lee WJ, Sasaki A, Wakabayashi G. History and current status of bariatric and metabolic surgeries in East Asia. **Asian J Endosc Surg**. 2015；8(3)：268-274.
2. Umemura A, Koeda K, Sasaki A, Fujiwara H, Kimura Y, Iwaya T, Akiyama Y, Wakabayashi G. Totally laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer: literature review and comparison of the procedure of esophagojejunostomy. **Asian J Surg**. 2015；38(2)：102-112.
3. Umemura A, Suto T, Sasaki A, Fujita T, Endo F, Wakabayashi G. Laparoscopic umbilical hernia repair in a cirrhotic patient with a peritoneovenous shunt. **Asian J Endosc Surg**. 2015；8(2)：212-215.
4. Hasegawa Y, Koffron AJ, Buell JF, Wakabayashi G. Approaches to laparoscopic liver resection: a meta-analysis of the role of hand-assisted laparoscopic surgery and the hybrid technique. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2015；22(5)：335-341.
5. Hasegawa Y, Nitta H, Sasaki A, Takahara T, Itabashi H, Katagiri H, Otsuka K, Nishizuka S, Wakabayashi G. Long-term Outcomes of Laparoscopic versus Open Liver Resection for Liver Metastases from Colorectal Cancer: A Comparative Analysis of 168 Consecutive Cases at a Single Center. **Surgery**, 2015；157(6)：1065-1072.
6. Yokobori T, Suzuki S, Miyazaki T, Sohda M, Sakai M, Tanaka N, Ozawa D, Hara K, Honjo H, Altan B, Fukuchi M, Ishii H, Iwatsuki M, Sugimachi K, Sudo T, Iwaya T, Nishida N, Mimori K, Kuwano H, Mori M. Intestinal epithelial culture under an air-liquid interface: a tool for studying human and mouse esophagi. **Dis Esophagus**, 2015.
7. Yaegashi M, Kimura T, Sakamoto T, Sato T, Kawasaki Y, Otsuka K, Wakabayashi G. Laparoscopic sigmoidectomy for a patient with situs inversus totalis: effect of changing operator position. **Int Surg**, 2015；100(4)：638-642.
8. Shinoda M, Ando N, Kato K, Ishikura S, Kato H, Tsubosa Y, Minashi K, Okabe H, Kimura Y, Kawano T, Kosugi S, Toh Y, Nakamura K, Fukuda H. Randomized study of low-dose versus standard-dose chemoradiotherapy for unresectable esophageal squamous cell carcinoma (JCOG0303). **Cancer Sci**, 2015；106(4)：407-412.
9. Akiyama Y, Iwaya T, Konosu M, Shioi Y, Endo F, Katagiri H, Nitta H, Kimura T, Otsuka K, Koeda K, Kashiwaba M, Mizuno M, Kimura Y, Sasaki A. Curative two-stage resection for synchronous triple cancers of the esophagus, colon, and liver: report of a case. **Int J Surg Case Rep**, 2015；30(13)：1-4.
10. Inaki N, Etoh T, Ohyama T, Uchiyama K, Katada N, Koeda K, Yoshida K, Takagane A, Kojima K, Sakuramoto S, Shiraishi N, Kitano S. A Multi-institutional, Prospective, Phase II Feasibility Study of Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy with D2 Lymph Node Dissection for Locally Advanced Gastric Cancer (JLSSG0901). **World J Surg**, 2015；39(11)：2734-2741.
11. Yoshikawa K, Shimada M, Wakabayashi G, Ishida K, Kaiho T, Kitagawa Y, Sakamoto J, Shiraishi N, Koeda K, Mochiki E, Saikawa Y, Yamaguchi K, Watanabe M, Morita S, Kitano S, Saji S, Kanematsu T, Kitajima M. Effect of Daikenchuto, a Traditional Japanese Herbal Medicine, after Total Gastrectomy for Gastric Cancer: A Multicenter, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Phase II Trial. **J Am Coll Surg**, 2015；221(2)：571-578.
12. Ise K, Kano M, Yamashita M, Ishii S, Shimizu H, Nakayama K, Gotoh M. Surgical closure of the larynx for intractable aspiration pneumonia: cannula-free care and minimizing the risk of developing trachea-innominate artery fistula. **Pediatr Surg Int**, 2015；31(10)：987-990.
13. Akiyama Y, Iwaya T , Shioi Y, Endo F, Ishida K, Kashiwaba M, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Kimura Y, Sasaki A. Successfully treated advanced esophageal cancer with left axillary lymph node metastasis and synchronous right breast cancer: a case report. **Surg Case Rep**, 2015；1(1)：94-100.
14. Akiyama Y, Iwaya T, Shioi Y, Endo F, Chiba T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Uesugi N, Kimura Y, Sasaki A. Effectiveness of neoadjuvant chemotherapy with cisplatin and irinotecan followed by surgery on small-cell carcinoma of the esophagus: A case report. **Int J Surg Case Rep**, 2015；30(17)：121-125.

1-2 和文論文

1. 木村 祐輔，柏葉 匡寛，伊藤 薫樹，杉山 徹．がんサバイバーを支える 緩和デイケア･サロン．**岩手医科大学附属病院「がん患者･家族サロン」**．2015；107-111.
2. 佐々木 章，新田 浩幸，大塚 幸喜，梅邑 晃，石垣 泰．Review Article Ⅱ（臨床）肥満２型糖尿病患者に対する肥満外科手術の効果．**Diabetes Journal**. 2015；43(1)：10-17.
3. 佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，大山 健一，須藤 隆之．第３章ヘルニア Reduced port surgery と単孔式手術．**手術**．2015；69(4)：543-549.
4. 遠藤 史隆，久米 浩平，西塚 哲．胃癌細胞株における 5-FU 反応性発現遺伝子の解析．**岩手医学雑誌**．2015；67(1)：25-32.
5. 佐賀 雄大，大塚 耕太郎，岩戸 清香，藤原 恵真，久保 千尋，中村 光，菅野 綾子，長澤 昌子，木村 祐輔，酒井 明夫．がん患者に対するソーシャルサポートについて リエゾン精神医学において関与する因子．**岩手医学雑誌**．2015；67(1)：11-24.

6. 鴻巣 正史 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 塩井 義裕 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 食道癌術後感染症に対する術前化学療法の影響 . **日本外科感染症学会雑誌** . 2015；12(2)：67-74.
7. 肥田 圭介 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 野田 宏伸 . 体腔鏡下上部消化管手術Ⅱ 腹腔鏡下胃癌手術ーリンパ節郭清のポイントと再建法 1. 幽門保存胃切除術 . **外科** . 2015；77(7)：769-772.
8. 木村 祐輔 . 在宅医療連携環境の構築における都道府県がん診療連携拠点病院の役割 . **日本在宅医学会雑誌** . 2015；17(1)：44-44.
9. 八重樫 瑞典 , 坂本 隆 , 佐藤 直夫 , 川﨑 雄一郎 , 坂下 伸夫 , 菅原 俊道 , 石川 徹 . 保存的加療に脱気が有用であった腹腔内遊離ガスを伴う腸管嚢腫様気腫症の 1 例 . **日本腹部救急医学会雑誌** . 2015；35(5)：639-643.
10. 木村 祐輔 . 鎮痛薬の特徴と選択・使用上の注意点と看護の役割 . **Oncology NURSE**. 2015；8(6)：63-65.
11. 木村 祐輔 .【鎮痛薬・鎮静薬 UP TO DATE】鎮痛薬の特徴と選択・使用の注意点と看護の役割 非オピオイド NSAIDs/ アセトアミノフェン . **Oncology Nurse**. 2015；8(6)：63-65.
12. 木村 祐輔 . 在宅医療連携環境の構築における都道府県がん診療連携拠点病院の役割 . **日本在宅医学会雑誌** . 2015；17(1)：44-44.
13. 肥田 圭介 , 千葉 丈広 , 西成 悠 . 特集 胃がんへの挑戦ー治療法のこれからを考える 3. 全摘後の再建について一胃再建の現状は、満足できるものか？. **臨床腫瘍プラクティス** . 2015；11(3)：194-198.
14. 岩谷 岳 , 三森 功士 . 食道癌を合併する遺伝性掌蹠角化症 :Tylosis. **日本臨床** . 2015；73(増刊 6)：428-432.
15. 安藤 太郎 , 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 佐藤 孝 , 阿保 亜紀子 , 石田 和之 , 若林 剛 . 脾臓 sclerosing angiomatoid nodular transformation に対し腹腔鏡下脾臓・膵尾部摘出術施行後に生じた術後膵瘻に対し内視鏡下ドレナージを施行した 1 例 . **日本外科系連合学会誌** . 2015；40(5)：976-983.
16. Chiba T, Sugitachi A, Kume K, Segawa T, Nishinari Y, Ishida K, Noda H, Nishizuka S, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Basic Studies on Locoregional Injection of a Newly Designed Chitin Sol. Gan to kagaku ryoho. **Cancer & chemotherapy**. 2015；42(12)：1563.
17. 木村祐輔 , 青木優子 .【外科医が知っておきたい緩和ケア】緩和ケアチーム . **消化器外科** . 2015；38(13)：1777-1783.
18. Chiba T, Sugitachi A, Kume K, Segawa T, Nishinari Y, Ishida K, Noda H, Nishizuka S, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Basic Studies on Locoregional Injection of a Newly Designed Chitin Sol. **癌と化学療**法 . 2015；42(12)：1561-1563.
19. 安藤太郎 , 新田浩幸 , 梅邑晃 , 佐々木章 , 長谷川康 . 術前診断が困難であった肝原発類上皮血管内皮腫に対し集学的治療を施行した 1 例 . **日本外科系連合学会誌** . 2015；40(6)：1152-1157.

2. 著　　書

1. 佐々木 章 , 若林 剛 . 腹腔鏡下脾臓摘出術 . **腹腔鏡下消化器外科手術 標準手技シリーズ第 4 巻** . 2015.
2. 佐々木 章 , 若林 剛 . 肝脾腫瘍に対する腹腔鏡下手術 . **消化器疾患 最新の治療 2015-2016**. 2015；1：25-30.
3. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 水野 大 . 術野の展開と組織の把持・牽引法 . **消化器外科** . 2015；38(4)：421-430.
4. 木村 祐輔 , 柏葉 匡寛 , 伊藤 薫樹 , 杉山 徹 . がんサバイバーを支える 緩和デイケア・サロン . **岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」**. 2015；107-111.
5. Kimura Y, Sasaki A, Obuchi T, Iwaya T, Akiyama Y, Konosu M, Endo F, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Wakabayashi G. Thoracoscopic Enucleation of Esophageal Benign Tumors, **Minimally Invasive Foregut Surgery for Malignancy**, 2015；177-181.
6. 大塚 幸喜 , 外館 幸敏 , 佐々木 章 . 大腸全摘術 . 坂井義治編 . 腹腔鏡下消化器外科手術 . **標準手技シリーズ 2. 下部消化管 . 第 1 版 . 東京 : 株式会社メディカルビュー社**；2015：11-24.

3. 学会発表

3-1 国際学会

10th Japan-China-Korea Laparoscopic Gastrectomy Joint Seminar, Beppu, Oita, Japan, 2015/02/14

1. Koeda K. Technical tips of reconsstruction after totally laparoscopic gastrectomy: To establish a secure and standardized procedure. Oral Presentation.

AACR Anual Meeting 2015, Philadelphia, PA, USA, 2015/04/18 ~ 04/22

1. Sato K, Nishizuka S, Iwaya T, Kume K, Otsuka K, Wakabayashi G. Tumor-unique mutation detection in cell-free DNA to monitor colorectal tumor burden using a cancer-associated gene sequencing panel. Poster Presentation.
2. Iwaya T, Sato K, Kume K, Nishizuka S, Wakabayashi G, Mimori K, Overexpression of long noncoding RNA FTX was associated with colorectal cancer progression. Poster Presentation.
3. Nishizuka S, Kume K, Sato K, Wakabayashi G. Prevention of peritonitis carcinomatosa after adjuvant chemotherapy by the inhibition of RNA polymerase in drug-tolerant subpopulations. Poster Presentation.

2nd Diabetes Surgery Summit, London, 2015/09/28 ~ 09/30

1. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Baba S, Umemura A, Takahara T, Iwaya T, Nishizuka S, Koeda K, Mizuno M. Laparoscopic sleeve gastrectomy improves nonalcholic fatty liver disease in Japanese diabetes patients with severe obesity. Poster Presentation.

5th RPPA Global Workshop, Manassas, VA, USA, 2015/10/12 ~ 10/13

1. Nishizuka S. From Dots to Data: Printing and Staining RPPA. Invited Presentation

3-2 国内学会

第 87 回日本胃癌学会 , 広島 , 2015/03/04 ～ 03/06

1. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 千葉 丈広 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 若林 剛 . 腹腔鏡下幽門保存胃切除術の手技と cine-MRI を用いた術後胃運動機能評価 . パネルディスカッション .
2. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 若林 剛 . 長期生存中の胃癌腹膜播種症例の 2 例 . 一般示説 .

＊ 肥田圭介 . 幽門保存胃切除術の術後機能評価 . 座長 .

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2015, 京都 , 2015/03/13 ～ 03/14

1. 木村 聡元 . チーム医療で成功させる大腸癌化学療法の実際 . ランチョンセミナー .

第 115 回日本外科学会定期学術集会 , 名古屋 , 2015/04/16 ～ 04/18

1. 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 木村 祐輔 , 塩井 義裕 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛 . 食道癌 NearT4 症例に対する Docetaxel/CDDP/5-Fu 療法の有用性の検討 . 一般口演 .
2. 田中 洋一 , 岩谷 岳 , 澤田 元太 , 岡 大嗣 , 福田 俊 , 川島 吉之 , 坂本 裕彦 , 森 正樹 , 三森 功士 . 遺伝性掌蹠角化症を有する家族性食道癌の責任遺伝子同定へのアプローチ . 一般口演 .
3. 水野 大 , 小林 めぐみ , 佐々木 章 , 肥田 圭介 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 木村 祐輔 , 若林 剛 . 小児外科疾患に対する低侵襲手術の適応と限界 . 一般口演 .
4. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 板橋 英教 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛 . 膵体尾部切除時の断端処理—Stapler vs Non-stapler—. ディベート .
5. 伊勢 一哉 , 山下 方俊 , 石井 証 , 清水 裕史 , 中山 馨 , 後藤 満一 . 重症心身傷害児に対する嚥下障害手術の外科的治療成績 . 一般口演 .
6. 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 鴻巣 正史 , 塩井 義裕 , 藤原 久貴 , 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 佐々木 章 , 水野 大 , 木村 祐輔 , 若林 剛 . 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の定型化 . 一般口演 .
7. 馬場 誠朗 , 亀山 哲章 , 佐々木 章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 宮田 量平 . 腹壁瘢痕ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下修復術の治療成績 . 一般口演 .
8. 鴻巣 正史 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 塩井 義裕 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 木村 祐輔 , 若林 剛 . 当科における食道癌根治切除術後頻脈性不整脈の発生要因とその対策 . 一般口演 .
9. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 鴻巣 正史 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛 . 糖尿病患者における胃癌手術後の耐糖能変化に関する検討 . 一般口演 .
10. 佐藤 慧 , 西塚 哲 , 八谷 剛史 , 岩谷 岳 , 久米 浩平 , 伊藤 千絵 , 大森 幸美 , 石田 馨 , 安孫子 幸人 , 大塚 幸喜 , 若林 剛 . 血漿中遊離 DNA を用いた大腸腫瘍量の定量モニタリング . 若手優秀演題賞 .
11. 石田 和茂 , 柏葉 匡宏 , 大槻 花恵 , 松井 雄介 , 小松 英明 , 稲葉 亨 , 川崎 朋範 , 木村 祐輔 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 菅井 有 , 若林 剛 . 当科の非浸潤性乳管癌におけるセンチネルリンパ節生検の検討 . 一般口演 .
12. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 松尾 鉄平 , 吉田 雅一 , 藤井 仁志 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛 . 肥満直腸癌症例に対する腹腔鏡手術の有用性 . 一般口演 .
13. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術の基本に立返る . ランチョンセミナー .

＊佐々木 章 . 一般演題 腹壁・ヘルニア 基礎・臨床 . 司会 .
＊肥田 圭介 . 胃 鏡視下手術・胃切除術 -1. 司会 .

第 101 回 消化器病学会総会 , 仙台 , 2015/04/23 ～ 04/25
1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 若林 剛 . 肝癌に対する腹腔鏡下肝切除の長期成績におけるコンセンサス . パネルディスカッション .

第 17 回日本在宅医学会大会 , 盛岡 , 2015/04/25 ～ 04/26
1. 木村 祐輔 . ～病院緩和ケアチームと在宅緩和ケアチームとの連携のあり方～ . シンポジウム .

第 13 回日本ヘルニア学会学術集会 , 名古屋 , 2015/05/22 ～ 05/23
1. 岩谷 岳 , 藤井 仁志 , 冨澤 勇貴 , 大塚 幸喜 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛 . 抗凝固薬内服治療中の患者に対する Standard Kugel 法の有用性 . パネルディスカッション .

第 27 回日本内分泌外科学会総会 , 福島 , 2015/05/28 ～ 05/29
1. 佐々木 章 . バセドウ病に対する内視鏡下甲状腺亜全摘術 ～乳房アプローチによる手技のコツと長期成績～ . ランチョンセミナー .

第 52 回日本小児外科学会学術集会 , 神戸 , 2015/05/28 ～ 05/30
1. 小林 めぐみ , 水野 大 . 腎膿瘍を契機に発見された片側水腎水尿管の一乳児例 . Poster Presentation.
2. 伊勢 一哉 , 鹿野 真人 , 山下 方俊 , 石井 証 , 清水 裕史 , 後藤 満一 . 声門閉鎖術における合併症対策 . 一般示説 .

第 27 回日本肝胆膵外科学会・学術集会 , 東京 , 2015/06/11 ～ 06/13
1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 若林 剛. ステイプラーによる尾側膵切除の成績. ワークショップ.
＊佐々木 章 . ポスターセッション 胆道・良性 内視鏡手術 1. 座長 .

第 66 回 日本東洋医学会学術総会 , 富山 , 2015/06/14 ～ 06/16
1. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 . 腹腔鏡下結腸癌手術の術前処置における桃核承気湯の使用経験 . 一般示説 .

第 40 回日本外科系連合学会学術集会 , 東京 , 2015/06/18 ～ 06/19
1. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 松尾 鉄平 , 吉田 雅一 , 藤井 仁志 , 上嶋 徳 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下大腸癌手術の教育 . 一般演題説 .
＊佐々木 章 . 一般口演 脾・その他 . 座長 .

第 20 回日本緩和医療学会学術大会 , 横浜 , 2015/06/18 ～ 06/20
1. 和泉 安弘 , 木村 祐輔 . がん終末期在宅療養患者における「在宅死」に至る要因分析 . 一般示説 .
2. 原田 昭子 , 佐々木 美加子 , 七戸 清恵 , 浅尾 洋子 , 木村 祐輔 . 急性期病棟における緩和ケア勉強会の取り組み . 一般示説 .
3. 佐藤 瑠美子 , 星 克仁 , 志賀 優 , 佐賀 雄大 , 岩戸 清香 , 菅野 綾子 , 木村 祐輔 , 酒井 明夫 . 岩手医科大学緩和ケアチームにおける精神科の活動報告 . 一般示説 .
4. 菅野 綾子, 木村 祐輔, 藤原 恵真, 有賀 久哲, 阿部 晶子, 佐藤 淳也, 高橋 一枝, 青木 慎也. 緩和ケアチームが効果的に機能する要因. 一般示説.

第 33 回日本肥満症治療学会学術集会 , 千葉市 , 2015/06/26 ～ 06/27
＊佐々木 章 . シンポジウム 2 Sleeve 保険収載 1 年 一現状と問題点一 . 座長 .

第 69 回日本食道学会学術集会 , 横浜 , 2015/07/02 ～ 07/03
1. 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 鴻巣 正史 , 塩井 義裕 , 遠藤 史隆 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 木村 祐輔 . 腹臥位胸腔鏡下食道亜全摘術における上縦隔郭清の工夫 . 一般口演 .
2. 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 塩井 義裕 , 木村 祐輔 , 遠藤 史隆 , 佐々木 章 . 進行食道癌に対する至適初回化学療法に関する検討 (CF 療法と DCF 療法の比較から). 一般示説 .

第 199 回日本消化器病学会東北支部例会 , 福島 , 2015/07/10
＊秋山 有史 . 一般演題 食道 . 座長 .

第 51 回日本周産期新生児学会学術集会 , 福岡 , 2015/07/10 ～ 07/12
1. 小林 めぐみ , 水野 大 , 松本 敦 , 金杉 知宣 , 菊地 昭彦 . 胎児気道閉鎖症に対し当院初の EXIT を施行し救命し得た一例 . 一般口演 .

第 70 回日本消化器外科学会総会 , 浜松 , 2015/07/15 ～ 07/17
1. 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 鴻巣 正史 , 千葉 丈広 , 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 木村 祐輔 , 若林 剛 . 腹臥位胸腔鏡下食道亜全摘術における縦隔リンパ節郭清の手術手技 . 一般口演 .
2. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 千葉 丈広 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 . 体腔鏡下幽門保存胃切除術におけるリンパ節郭清と再建の工夫 . 一般口演 .
3. 佐藤 慧 , 西塚 哲 , 岩谷 岳 , 久米 浩平 , 大塚 幸喜 , 若林 剛 . Assessment of colorectal tumor burden using tumor-unique mutated fragment in cell-free DNA. 企画関連口演 .
4. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 . 直腸癌手術における工夫 ～縫合不全ゼロをめざした手技から周術期管理まで～ . ブースセミナー .
5. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 水野 大 . 肥満 2 型糖尿病患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の短期成績 . 要望演題 .
6. 鴻巣 正史 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 塩井 義裕 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 木村 祐輔 . 当科における高齢者食道癌に対する治療戦略 . 一般口演 .

7. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 岩谷 岳 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛 . 完全腹腔鏡下幽門側胃切除術における Billroth-I 再建法の成績〜腹腔鏡補助下再建との比較 . ミニオーラル .
8. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 . 腹腔鏡下結腸癌手術に対する桃核承気湯を用いた術前処置の検討 . 要望演題 .
9. 馬場 誠朗 , 亀山 哲章 , 佐々木 章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 宮田 量平 , 天田 塩 , 若林 剛 . 若年成人の鼠径ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖法 (SILPEC) の適応拡大 . 一般口演 .
10. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 板橋 英教 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 安藤 太郎 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 若林 剛 . 安全に腹腔鏡下肝切除術の適応を拡大するために—術式の変遷と成績から . 一般口演 .
11. 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 専門的緩和ケアチームにおける消化器外科医の役割 . 一般口演 .
12. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 松尾 鉄平 , 吉田 雅一 , 藤井 仁志 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . Laparoscopic surgery for obese rectal cancer patients. 一般口演 .
13. 大塚 幸喜 . 知っておきたい！腹腔鏡下直腸癌手術のあれこれ . イブニングセミナー .
14. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下進行右半結腸切除術〜右半結腸切除術　定型化に向けて〜 . ランチョンセミナー .

＊ 佐々木 章 . 一般演題 (ミニオーラル) 食道良性 1. 座長 .
＊ 大塚 幸喜 . 大腸癌　手術 2. 一般口演　座長 .

第 57 回日本婦人科腫瘍学会 , 盛岡 , 2015/08/07 〜 08/08

1. 大塚 幸喜 . 大腸外科医から見た骨盤臨床解剖と直腸癌に対する腹腔鏡手術の実際 . モーニングセミナー .

第 170 回 東北外科集談会 , 福島市 , 2015/09/19

＊ 木村 聡元 . 小腸・大腸 . 座長 .

第 41 回日本重症心身障害学会 , 東京 , 2015/09/18 〜 09/19

1. 伊勢 一哉 , 石井 希代子 . 嚥下障害手術—声門閉鎖術の治療成績 . 一般口演 .

第 74 回日本癌学会学術集会 , 名古屋 , 2015/10/08 〜 10/10

1. Iwaya T, Sawada G, Akiyama Y, Endo F, Kume K, Nishizuka S, Mori M, Mimori K. Analysis of genes on chromosome 17q responsible for sporadic esophageal squamous cell carcinoma . 一般口演 .
2. 西塚 哲 , 佐藤 慧 , 久米 浩平 , 岩谷 岳 . 癌関連遺伝子パネルを用いた体内腫瘍量モニタリングのための腫瘍由来 DNA 中個別変異検出 . インターナショナルセッション .
3. 久米 浩平 , 遠藤 史隆 , 片桐 弘勝 , 佐藤 慧 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 . Prevention of peritonitis carcinomatosa from drug-tolerant cell subpopulations using an RNA polymerase inhibitor. シンポジウム .

第 31 回日本小児外科学会秋季シンポジウム , 熊本 , 2015/10/31

1. 伊勢 一哉 , 山下 方俊 , 石井 証 , 清水 裕史 , 小林 めぐみ , 水野 大 , 後藤 満一 . Oncologic emergencyを呈した胎児腫瘍の４例 . シンポジウム .

第 70 回日本大腸肛門病学会学術集会 , 名古屋市 , 2015/11/13 〜 11/14

1. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 . 当科における外来化学療法のチーム医療 . Workshop.
2. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 , 松尾 鉄平 , 藤井 仁志 , 佐藤 慧 , 佐々木 章 . 進行横行結腸癌に対する腹腔鏡手術の現状と展望 . 一般演題 .

第 42 回臓器保存生物医学会 , 盛岡 , 2015/11/13 〜 11/14

1. 西塚 哲 . Muse 細胞による肝切除後細胞補填療法の可能性 . 招待講演 .

第 68 回 道南医学会大会 , 函館市 , 2015/11/21

1. 佐藤 慧 , 髙金 明典 , 小林 慎 , 小川 雅彰 , 舩渡 治 , 米澤 仁志 , 大渕 徹 , 菅野 将史 , 川岸 涼子 . 函館五稜郭病院外科における急性虫垂炎の治療戦略 . 一般口演 .

日本消化器病学会東北支部 第 17 回教育講演会 , 盛岡 , 2015/11/22

＊ 佐々木 章 . 肝・胆・膵疾患に対する腹腔鏡治療 . 司会 .

第 77 回日本臨床外科学会総会 , 福岡 , 2015/11/26 〜 11/28

1. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 西成 悠 , 瀬川 武紀 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 佐々木 章 . 併存疾患を有する胃癌患者の周術期管理の現状と工夫 . パネルディスカッション .
2. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 真壁 健二 , 馬場 誠朗 , 安藤 太郎 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下肝切除術における出血コントロール—Pringle 法と気腹 . ワークショップ .
3. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 . 当科における直腸縫合不全予防に対する取り組み . パネルディスカッション .
4. 佐々木 章 . Reduced port surgery の展開 (肝、胆、膵、脾、その他). ビデオワークショップ .
5. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . Reduced port による腹腔鏡下脾臓摘出術 . ビデオワークショップ .
6. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . バセドウ病に対する内視鏡下甲状腺亜全摘術 : 手技の工夫と長期成績 . ビデオワークショップ .

7. 水野 大 , 小林 めぐみ , 伊勢 一哉 , 岩谷 岳 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 地方における小児外科医療の現状 —地方の小児外科認定施設の立場から -. パネルディスカッション .
8. 肥田 圭介 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 瀬川 武紀 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 佐々木 章 . 合併症ゼロを目指した腹腔鏡下胃切除鏡視下再建法の確立～ Linear stapler と Burbed suture device を用いた消化管再建～ . 一般口演 .
9. 遠藤 史隆 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 塩井 義裕 , 木村 祐輔 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 当院における高齢者に対する食道癌手術の治療成績 . シンポジウム .
10. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下大腸癌手術の均てん化への取り組み . ワークショップ .

＊ 木村 祐輔 . 高齢化時代の手術・VTE・NST1. 司会 .

第 30 回岩手栄養改善学会 , 盛岡 , 2015/12/02

1. 木村 祐輔 . 緩和ケアと栄養管理 . 特別講演 .

第 28 回日本内視鏡外科学会総会 , 大阪 , 2015/12/10 ～ 12/12

1. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 安藤 太朗 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 高度肥満症・2 型糖尿病に対する外科治療 : 多職種連携と臨床研究 . シンポジウム .
2. 佐々木 章 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . ディベートセッション 甲状腺に対する内視鏡下手術 : 完全内視鏡下手術 . 講演 .
3. 佐々木 章 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 乳房アプローチによる内視鏡下甲状腺切除術の適応と利点 . ワークショップ .
4. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における手技の工夫と定型化 . パネルディスカッション .
5. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 真壁 健二 , 馬場 誠朗 , 安藤 太郎 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下肝切除術において Pringle 法がもたらす効果 . ワークショップ .
6. 肥田 圭介 , 千葉 丈広 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 瀬川 武紀 , 秋山 有史 , 西塚 哲 , 岩谷 岳 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下胃全摘における合併症を防ぐための工夫 . ワークショップ .
7. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 . 当科における腹腔鏡下結腸癌手術に対する ERAS のとりくみ . 一般口演 .
8. 佐々木 章 . 腹腔鏡下脾摘除術 . ディスカッサント .
9. 水野 大 , 小林 めぐみ , 岩谷 岳 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 小児内視鏡外科手術において合併症を減らすには . パネルディスカッション .
10. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 西成 悠 , 瀬川 武紀 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 佐々木 章 . 当科における腹腔鏡下幽門保存胃切除～究極の機能温存手術を目指して . 一般口演 .
11. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 , 松尾 鉄平 , 吉田 雅一 , 藤井 仁志 , 秋山 有史 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下結腸右半切除術 . エキスパートビデオセッション .
12. 佐々木 章 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 完全内視鏡下手術 . ディベートセッション .
13. 新田 浩幸 , 高原 武志 , 長谷川 康 , 板橋 英教 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 眞壁 健二 , 岩谷 岳 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . ラパロの立場から . ディベートセッション .
14. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 眞壁 健二 , 武田 大樹 , 片桐 弘勝 , 板橋 英教 , 佐々木 章 . 当教室でのドナー肝切除の手術成績 . シンポジウム .
15. 新田 浩幸 , 高原 武志 , 長谷川 康 , 板橋 英教 , 菅野 将史 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 眞壁 健二 , 岩谷 岳 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 出血を制御した Clamp-Crush 法による腹腔鏡下肝部分切除術 . ワークシップ .
16. 箱崎 将規 , 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 上嶋 徳 , 八重樫瑞典 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下大腸癌手術における超音波凝固切開装置使用の工夫 . ワークシップ .
17. 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 長谷川 康 , 片桐 弘勝 , 眞壁 健二 , 岩谷 岳 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 安全に行う腹腔鏡下肝切除 ～出血コントロールの工夫～ . ワークシップ .
18. 片桐 弘勝 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 長谷川 康 , 武田 大樹 , 眞壁 健二 , 馬場 誠郎 , 安藤 太郎 , 岩谷 岳 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 木村 祐輔 . ソフト凝固を用いた安全な腹腔鏡下肝切除術 . ワークシップ .
19. 上嶋 徳 , 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下大腸癌手術の教育の工夫 －教育を受けている立場から－ . 一般口演 .
20. 八重樫 瑞典 , 大塚 幸喜 , 藤井 仁志 , 上嶋 徳 , 松尾 鉄平 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 岩谷 岳 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 腹腔鏡下大腸癌手術における臍縦切開と SSI. 一般口演 .
21. 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 塩井 義裕 , 遠藤 史隆 , 千葉 丈広 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 , 佐々木 章 . 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手技と治療成績 . 一般口演 .
22. 安藤 太郎 , 佐々木 章 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 木村 祐輔 . 妊娠中期に腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した特発性血小板減少性紫斑病の 1 例 . 一般口演 .
23. 眞壁 健二 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 片桐 弘勝 , 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 . 膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の短期・長期成績の検討 . 一般口演 .

24. 西成 悠 , 肥田 圭介 , 瀬川 武紀 , 石田 馨 , 千葉 丈広 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 佐々木 章 . 80 歳以上の高齢者における腹腔鏡下胃切除術の検討 . 一般口演 .
25. 瀬川 武紀 , 肥田 圭介 , 西成 悠 , 千葉 丈広 , 岩谷 岳 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 佐々木 章 . 腹腔鏡下噴門側胃切除術を施行した Gastric Foregut cystic developmental malformation の 1 例 . 一般口演 .
26. 大塚 幸喜 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 , 松尾 鉄平 , 吉田 雅一 , 藤井 仁志 , 秋山 有史 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 . 低侵襲内視鏡手術のピットフォールとリカバリー . ランチョンセミナー .

＊ 肥田 圭介 . 上部進行胃癌に対する腹腔鏡下手術 : 解剖とエビデンスに基づいたリンパ節郭清 . 司会 .
＊ 木村 聡元 . ヘルニア 傍ストマヘルニア他 . 座長 .
＊ 大塚 幸喜 . 横行結腸癌に対する 手技の定型化は可能か . パネルディスカッション　座長 .
＊ 大塚 幸喜 . われわれはこうして技術認定 取得者を育てている . パネルディスカッション　座長 .
＊ 大塚 幸喜 . 誰も教えてくれない手術機器の うまい使い方（1）LCS. ワークショップ .

3-3 研究会・セミナー等

第 82 回 大腸癌研究会 , 東京 , 2015/01/23

1. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 . 当教室における進行横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の現状 . 一般口演 .
2. 大塚 幸喜 . 進行結腸癌に対する腹腔鏡手術　－安全に適応拡大するためには－ . ランチョンセミナー .

第 4 回 岩手呼吸リハビリテーションセミナー , 盛岡 , 2015/02/01

1. 秋山 有史 . 外科における ICU での集中治療・管理 . 講演 .

第 562 回八戸胃腸研究会 , 八戸 , 2015/02/25

1. 佐々木 章 . 肥満糖尿病に対する外科治療の効果 一糖尿病手術の時代が来る？一 . 特別講演 .

第 6 回ベンチレーターバンドルミーティング 呼吸器ケアと沈静のための研究会 , 盛岡 , 2015/02/25

1. 秋山 有史 . チーム医療による食道癌周術期呼吸器感染症対策の取り組み . 講演 .

第 26 回東北小児肝胆膵消化管研究会 , 仙台 , 2015/03/21

1. 小林 めぐみ , 佐々木 秀策 , 水野 大 . 難治性腸炎を繰り返す Hirschsprung 病 extensive type の症例報告 . 一般口演 .

第 31 回 岩手ストーマ研究会 , 盛岡 , 2015/03/28

1. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 . 腹腔鏡下直腸切断術における後腹膜経路人工肛門造設術の経験 . 一般口演 .

第 17 回外科分子細胞治療研究会 , 名古屋 , 2015/04/16

1. 岩谷 岳 . 癌細胞・癌関連線維芽細胞におけるヒストン mRNA/microRNA 代謝経路を標的とした癌治療法開発に向けた基礎研究 . 紙面掲載 .

第 5 回肥満と消化器疾患研究会 , 仙台 , 2015/04/22

1. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 水野 大 . 非アルコール性脂肪性肝炎に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果 . シンポジウム .

一関医師会学術講演会 , 一関 , 2015/04/22

1. 佐々木 章 . 肥満 2 型糖尿病に対する新たな治療戦略 ～手術で内科疾患を治す～ . 特別講演 .

第 26 回内視鏡外科フォーラム , 会津 , 2015/04/25

1. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 安藤 太郎 , 梅邑 晃 , 高原 武志 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 . 高度肥満 2 型糖尿病患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果 . 一般口演 .

大阪大学基礎工学研究科数理医学研究会 , 豊中 , 2015/04/28

1. 西 塚 哲 . がん研究における定量生物学 . セミナー .

第 18 回岩手内視鏡外科研究会 , 盛岡 , 2015/05/09

＊ 佐々木 章 . 一般演題 . 座長 .

第 22 回糖尿病治療・看護・療養指導を考える試行錯誤の会 , 秋田 , 2015/06/04

1. 佐々木 章 . 肥満 2 型糖尿病に対する新たな治療戦略 ～外科治療の適応と効果～ . 特別講演 .

第 7 回いわて肥満症治療セミナー , 盛岡 , 2015/06/19

1. 佐々木 章 . 肥満外科手術が肥満関連健康障害に及ぼす影響 . 講演 .

NGS 現場の会 , つくば , 2015/07/01 ～ 07/03

1. 西塚 哲 . 個別化血中遊離 DNA 変異検出による体内腫瘍量モニタリング . 招待講演 .

第 37 回日本癌局所療法研究会 , 千葉 , 2015/07/10

1. 千葉 丈広 , 杉立 彰夫 , 久米 浩平 , 野田 宏伸 , 西成 悠 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 肥田 圭介 , 若林 剛 . キチンを利用した癌局所化学療法の試み . 一般口演 .

東北 DDW, 福島 , 2015/07/10

1. 西塚 哲 . Long Surviving Fluorothymidine ～大腸癌治療の新たな選択肢～ . ランチョンセミナー .

第 52 回岩手周産期研究会 , 盛岡 , 2015/08/22

1. 小林 めぐみ , 水野 大 . 当院初の EXIT にて救命し得た胎児気道閉鎖症の一例 . 一般口演 .

第 9 回 北東北 LAC 情報交換会 , 盛岡 , 2015/08/29

1. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 . 当科における腹腔鏡下直腸癌手術の工夫～縫合不全ゼロを目指した手術手技から周術期管理～ . 講演 .

＊ 佐々木 章 . 特別講演 腹腔鏡でみる骨盤解剖と側方郭清 . 座長

第 41 回東北小児外科研究会 , 福島 , 2015/09/18

1. 小林 めぐみ , 伊勢 一哉 , 水野 大 . PIFIC1 型に対する部分的胆汁瘻造設後絞扼性イレウスにより短腸症候群となった一女児例 . 一般口演 .

第 85 回日本小児外科学会東北地方会 , 福島 , 2015/09/19

1. 小林 めぐみ , 伊勢 一哉 , 水野 大 . 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症 1 型に対する部分的胆汁瘻造設の経験 . 一般口演 .

第 5 回みちのく LAG セミナー , 盛岡 , 2015/10/03

＊ 佐々木 章 . 特別講演 4 腹腔鏡下胃切除術におけるリンパ節郭清および再建のコツ . 座長 .

第 5 回肥満症総合治療セミナー , 東京 , 2015/10/18 ～ 10/19

1. 佐々木 章 . 術前後の栄養管理 外科の立場から . 講演 .

第 10 回岩手骨盤外科研究会 , 盛岡 , 2015/10/23

＊ 佐々木 章 . 骨盤外科の発展に向けて 一直腸外科の立場から . 座長 .

がんゲノム・エピゲノムセミナー , 花巻 , 2015/10/24

1. 西塚 哲 . 血中遊離 DNA による体内腫瘍量モニタリングのための癌関連遺伝子パネルの応用 . 招待講演 .

二戸医師会学術講演会 , 二戸 , 2015/10/29

1. 佐々木 章 . 肥満 2 型糖尿病に対する外科治療 . 特別講演 .

第 72 回直腸肛門奇形研究会 , 熊本 , 2015/10/29

1. 伊勢一哉 , 山下方俊 , 石井 証 , 清水裕史 , 小林めぐみ , 水野 大 , 後藤満一 . 総排泄腔違残 5 例の経験と問題点 . 一般口演 .

第 1 回東北肥満・糖尿病チーム医療セミナー , 盛岡 , 2015/10/31

1. 佐々木 章 . 糖尿病に対する外科治療の現状と治療 . 特別講演 .

1. 佐々木 章 . 肥満糖尿病に対する新しい治療 ～チーム医療の重要性～ . シンポジウム .

第 8 回東北ヘルニア研究会 , 仙台 , 2015/11/21

1. 馬場 誠朗 , 冨澤 勇貴 , 岩谷 岳 , 安藤 太郎 , 野田 芳範 , 川村 英伸 , 佐々木 章 . 単孔式 TEP を施行した 4 症例の経験 . 一般口演 .

第 9 回 肝臓内視鏡外科研究会 , 福岡 , 2015/11/25

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 片桐 弘勝 , 馬場 誠朗 , 武田 大樹 , 真壁 健二 , 安藤 太郎 , 佐々木 章 . 非大腸癌・非内分泌腫瘍由来肝転移に対する腹腔鏡下肝切除術 . シンポジウム .

第 25 回外科漢方研究会学術集会 , 福岡 , 2015/11/27

1. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 八重樫 瑞典 , 上嶋 徳 . 当科における腹腔鏡下大腸癌手術における ERAS の取り組み . Workshop.

第 136 回日本小児科学会岩手地方会 , 盛岡 , 2015/12/12

1. 小林 めぐみ , 伊勢 一哉 , 水野 大 . 小児虫垂炎の治療方針～当院における Interval appendectomy の現状について . 一般口演 .

4. 講 演 会

金沢 LAG ビデオフォーラム , 金沢市 , 2015/01/17

1. 肥田 圭介 . 胃癌腹腔鏡マイスターを目指そう 岩手医科大学における腹腔鏡胃切除の現状と教育 . 講演 .

株式会社陽進堂講演会 , 盛岡市 , 2015/01/23

1. 佐々木 章 . 新規末梢輸液の有用性 . 講演 .

日医生涯教育協力講座 新しいステージを迎えた糖尿病医療 , 盛岡 , 2015/02/14

1. 佐々木 章 . 肥満 2 型糖尿病患者に対する外科治療 . 特別講演 .

第 4 回肥満症総合治療セミナー , 佐倉市 , 2015/02/21 ～ 2015/02/22

1. 佐々木 章 . 肥満外科治療の術前管理 ～とくに栄養管理について～ . 講演 .

Southern TOHOKU Research Medical Conference, 郡山 , 2015/02/08
1. 大塚 幸喜 . 大腸癌に対する腹腔鏡手術の標準化と適応拡大 . 講演

第 18 回 北陸大腸癌研究会 , 金沢 , 2015/3/7
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術を安全に適応拡大していくためには ー知っておくべき偶発症と合併症ー . 講演

第 26 回 内視鏡外科フォーラム東北 , 会津 , 2015/4/26
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸がん手術をいかに上手にするか .- 見せて、聞かせる教育 -. 講演

がん治療センター地域連携講演会 , 能代 , 2015/5/22
1. 大塚 幸喜 . 局所進行直腸癌に対する集学的治療 . 講演

日本臨床外科学会福島県支部会 , 郡山 ,2015/5/23
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術の現状と今後の展望 . 講演

第 445 回 八戸外科集談会 , 八戸 , 2015/6/26
1. 大塚 幸喜 . 局所進行直腸癌に対する集学的治療 . 講演

第 21 回 北海道内視鏡外科研究会 , 札幌 , 2015/6/27
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術における 3D 内視鏡、THUNDERBEAT の有用性 . 講演

第 3 回 旭川アドバンスラパロセミナー , 札幌 , 2015/7/4
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術いかに上手になるか、いかに上手にするか . 講演

公益社団法人岩手県栄養士会 , 盛岡 , 2015/7/11
1. 大塚 幸喜 . 大腸がんについて . 講演

第 22 回外科フォーラム , 東京 , 2015/07/25
1. 木村 祐輔 . 終末期がん患者における地域連携のマネジメント . 招待講演 .

平成 27 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業 . 盛岡 ,　2015/7/29
1. 大塚 幸喜 . 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術の現状と期待 . 講演

平成 27 年度 恵眼会総会 , 盛岡 , 2015/08/22
1. 木村 祐輔 . がん治療と緩和ケア . 特別講演 .

リレーフォーライフ一関 2015, 一関市 , 2015/09/12
1. 木村 祐輔 . がん治療と緩和ケア ーみんなで考えてみませんか？ー . 特別講演 .

盛岡赤十字病院緩和医療学習会 , 盛岡 , 2015/09/17
1. 木村 祐輔 .『岩手の緩和ケアーこれまでとこれからー』. 特別講演 .

第 5 回 とかちラパロ教室 , 帯広 , 2015/9/18
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術いかに上手になるか、いかに上手にするか . 講演

第 26 回 神奈川消化器内視鏡外科研究会 , 横浜 , 2015/10/2
1. 大塚 幸喜 . 大腸癌に対する腹腔鏡手術の適応拡大に必要なこと . 講演

第 26 回長野県内視鏡外科研究会 , 長野 , 2015/10/24
1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡大腸癌手術を安全に適応拡大していくためには . 講演

兵庫骨盤 Training, 神戸市 , 2015/11/07
1. 木村 聡元 . 腹腔鏡下直腸切断術 ～縫合不全、リスク軽減のために～ . セミナー .

臨床研究セミナー , 横浜 , 2015/11/17
1. 西塚 哲 . 逆相タンパクライセートアレイを用いた定量生物学の癌研究への応用 . 招待講演 .

大腸癌集学的治療研究会 , 大阪 , 2015/11/17
1. 大 塚幸喜 . 合併症から学んだ直腸癌に対する安全な腹腔鏡手術 . 講演

第 6 回 南大阪腹腔鏡セミナー , 川崎 , 2015.11.21
1. 大塚 幸喜 . 大腸癌に対する安全な腹腔鏡手術をめざして - 教育の重要性 -. 講演

第 13 回市民公開講座 , 盛岡 , 2015/12/01
1. 佐々木 章 . みんなで学ぼう ー肥満・糖尿病の最新治療ー . 特別講演 .

金ヶ崎病院 勉強会 , 金ヶ崎町 , 2015/12/10
1. 木村 祐輔 . 岩手における緩和ケア これまでとこれから . 特別講演 .

編集後記

新体制となって８か月が経ち、私が教室年報を担当してから２回目の編集となりました。前回は諸事情により縮小版とさせて頂きましたが、今回はフルでの掲載となっております。まだまだ教室員も十分ではない状況ではありますが、臨床・研究・教育・遊び？と充実した外科医生活を送っているのがご覧頂けると思います。いつものことではありますが、この編集作業は秘書さん方の力が大きく、無事予定通りの時期に発送することができました。今後も岩手医科大学外科学講座の真の姿をお見せできるよう努めたいと思います。

（文責　新田浩幸）

表紙説明

撮影：2010.7.20

岩手県矢巾町の南昌山の登り口にある幣懸（ぬさかけ）の滝です。南昌山に入山するマタギが幣束をささげ安全を祈ったことから名前がついたといわれています。創立120周年記念事業では、平成31年度に矢巾新附属病院が開設される予定です。

佐々木　章（岩手医科大学外科学講座）

巖刀会（がんとうかい：岩手山別称（巌鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）